

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究 （最終報告）

－「明日を拓く」の活用を中心とした取組－

人間としての在り方生き方を考え、主体的に判断し行動する生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について3年間の研究を行った。1年目に作成した『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』を踏まえて、2, 3年目は『明日を拓く』（愛知県教育委員会発行）を活用した取組やマイクロインサージョンの手法による取組を進め、国語科、保健体育科、家庭科、工業科、総合的な学習の時間など、さまざまな教科等において道德教育の推進が可能であることを示した。

<検索用キーワード> 高等学校 学習指導要領 生きる力 在り方生き方
道德教育 全体計画 明日を拓く マイクロインサージョン

顧問

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

指導・助言

県教育委員会高等学校教育課課長補佐

田中 耕太郎

研究協議会委員

県立鳴海高等学校教諭（現県立天白高等学校教頭） 豊永 秀行（平成25, 26年度）

県立瀬戸高等学校教諭（現県立瀬戸高等学校教頭） 勝見ひろみ（平成25, 26年度）

県立岡崎工業高等学校教諭 五十嵐崇文（平成25, 26, 27年度）

県立豊橋商業高等学校教諭 小島 佳世（平成25, 26, 27年度）

県立豊田西高等学校教諭 久田 恒夫（平成27年度）

県立松平高等学校教諭 松宮 博（平成27年度）

総合教育センター教科研究室長（現県立時習館高等学校教頭） 齋藤 育浩（平成25年度）

総合教育センター研究指導主事（現豊川市立金屋中学校主幹教諭） 田中 基明（平成25年度）

総合教育センター教科研究室長 米津 明彦（平成25主務者, 26, 27年度）

総合教育センター研究指導主事 川口 永理（平成27年度）

総合教育センター研究指導主事 浅倉 幸代（平成26, 27年度）

総合教育センター研究指導主事 小崎 早苗（平成26, 27年度主務者）

1 はじめに

昨今の子どもたちの現状として、自制心や規範意識が希薄になり、生活習慣の確立も不十分であることが挙げられている。また、いじめや暴力行為等の問題行動に見られるように、心に問題を抱える子どもが増えていることも指摘されている。さらに、自分に自信のある子どもが国際的に見て少ないことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子どもが増えていることも課題となっている。このような状況から、学校においては、集団生活の場としての機能を十分に生かし、道德教育をいっそう充実することが求められている。

現行の学習指導要領では、学校教育において「生きる力」という理念を共有し、「確かな学力」「健やかな体」とともに「豊かな心」を育むこととし、児童生徒の発達の段階に応じた道德教育に取り組み、学校の教育活動全体を通じて道德性を養うことが示されている。小学校及び中学校では「道德の時間」が要の時間として設定され、1年間で取り上げる内容項目も明示されており、道德教育推進教師（道德教育の推進を主に担当する教師）を中心とした指導体制の充実や、発達の段階に応じた指導内容の重点化等が求められている。さらに、平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われ、道德の時間が「特別の教科」という新たな枠組みによって教科化されるに当たり、検定教科書の使用や評価の在り方等、取り組むべき課題も増えている。高等学校においては、生徒が人間としての在り方生き方について自ら考え、体験活動や思索の機会を通して自分自身の判断基準を確立し、自分にふさわしいよりよい生き方を選択できるようになることを目指し、中学校の道德教育の指導内容を踏まえた道德教育を行うことが大切であるとされている。

平成23年6月に策定された「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」では、幅広い県民の参加により道德性・社会性の向上を図ることが第一の重点目標とされ、道德教育の充実には、本県の学校・家庭・地域が連携して取り組むべき主要な施策となっている。愛知県教育委員会では、平成25年3月に道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』を発行し、各高等学校がさまざまな教育活動の場で具体的に活用することのできるワークシート付きの教材を紹介しており、それらを参考にして、各教師が創意工夫を重ね、いっそう充実した取組を行うことが望まれる。

各高等学校においては、全教師が協力して道德教育を展開するため、指導の方針や重点を明確にした道德教育の全体計画を作成し、年間指導計画に基づいた道德教育を実践することが求められている。しかし、高等学校では、「道德の時間」が設定されていないことや、道德教育についての実践研究が少なく、具体的なイメージがつかめないことなどから、道德教育が浸透し充実しているとは言い難い状況である。各校で道德教育を意図的・計画的に推進するための方策が必要となっている。

これらのことを踏まえ、本研究では、高等学校における道德教育の在り方について研究を進め、各学校における道德教育の推進に資する提案をすることとした。

2 研究の目的

人間としての在り方生き方を真摯に考え、主体的に判断し行動する生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について研究する。さまざまな実践に取り組み、具体的な事例を紹介することにより、県内各高等学校において道德教育の実践意欲が高まることを目指す。さらに、各校が設定する道德に関する重点目標の実現に向け、教育活動全体において計画的な道德教育が展開されるよう、具体的な提案をする。

3 研究の方法

平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり、研究協力委員と所員との共同研究を行う。

平成25年度は、以下の4点についての調査及び実践を基に、高等学校における道德教育の推進の在り方について協議し、その内容について、総合教育センター研究発表会において第一次報告を行うこととした。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校における道德教育の在り方について
- (2) 義務教育段階における道德教育の内容と、高等学校への円滑な接続について
- (3) 道德教育先進県での取組と、本県の道德教育推進の方向性について
- (4) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）の活用による道德教育の具体的な取組や推進方法について

平成26, 27年度は、初年度の成果を踏まえ、以下の2点についての調査及び実践を基に、高等学校における道德教育の具体的な推進方法について協議し、その内容について、総合教育センター研究発表会において発表することとした。

- (1) マイクロインサージョンの手法による、各教科・科目等の特質に応じた道德教育の推進を図る取組について
- (2) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）を活用した各教科等における道德教育の推進方法について

なお、平成25年度の取組の詳細については、総合教育センター研究紀要第103集（平成25年度）に「高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究（第1次報告）」として掲載されている。

4 研究の内容

(1) マイクロインサージョンの手法による道德教育の推進を図る取組（実践報告No.1 参照）

岡崎工業高等学校では、学校の教育活動全体を通じた道德教育を促進するために、校内の現職研修会において道德教育指導者中央研修の伝達講習を行ったり、各教科・校務分掌の代表者による道德教育の全体計画の見直しを行ったりした。同時に、マイクロインサージョンを活用して、各教科・科目の特質に応じた道德教育の推進を図る方法について、校内の初任者研修や5年経験者研修を兼ねた現職研修会において学び合いを進め、各教科・科目の授業において積極的に活用されるよう図った。なお、マイクロインサージョンとは、各科目の授業内容の中に、特定（ここでは道德）の内容を埋め込む手法のことである。

マイクロインサージョンを活用した授業案（資料1）の作成などを通じて、教職員の道德教育に対する理解が深まり、各教科・科目等だけでなく、学級活動や学年集会などにおいても、道德教育に関する実践が増えていった。どの教職員でも、比較的抵抗感なく取り組めるマイクロインサージョンの手法を用いた実践は、学校教育全体を通じた道德教育を進めていく上で、有効な方策になることが分かった。

【資料1 マイクロインサーションを活用した保健の授業案】

【教科・科目名 : 保健体育・保健】

【作成者 : ○ ○ ○ ○】

実施学年	1年	実施時期	6月
主 題 名	生活習慣（食生活）について考えよう		
内容項目	1－(1)基本的な生活習慣 2－(2)人間愛・思いやり		
資 料 名	『現代高等保健体育』（大修館書店）		
ね ら い	<p>【教科的視点】</p> <p>自分の生活習慣を改めて見直すことにより、問題点を発見させ、改善することができるようにする。また、生活習慣の問題点を他者に相談することにより、新たな改善策に気付かせる。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>自分の生活習慣を改善することにより基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、他者の問題点に際し、改善策を考えさせることにより、相手への思いやりの気持ちを意識させる。</p>		
展開の 大 要	学習活動		指導上の留意点
	導入	生活習慣（ここでは食生活について）を見直す。問題点をプリントに記入する。	自分の問題点について、具体的にプリントに記入するように伝える。
	展開	自分の問題点について改善策を考え、プリントに記入する。 プリントを隣と交換し、相手の問題点について、改善策を考え、記入する。	実現可能な改善策を考えさせる。 相手のことを考え、効果的で実現可能な改善策を考えるようにさせる。
	終結	互いに考えた改善策について、相手に分かりやすく伝える。	自分のことを思い、改善策を考えてくれていることを理解させる。
評 価		評 価 の 方 法	
<p>【教科的視点】</p> <p>問題点について効果的な改善策を考えることができる。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>相手のことを思いやり、改善策を考えることができる。</p>		<p>【教科的視点】</p> <p>プリントにしっかり記入できているかによって評価する。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>相手のことをしっかり考えて改善策を記入できているかプリントで評価する。</p>	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
家庭科や体育等で、生活習慣や健康増進について考えを深める。		相手に考えた改善策を説明する時間を多く取れなかった。また、全体に発表させ、意見交換を行えばよかったと思いました。	

(2) 『明日を拓く―人間としての在り方生き方を求めて―』を活用した道徳の授業実践

県内の各県立高等学校に配付されている道徳教育指導参考資料『明日を拓く―人間としての在り方生き方を求めて―』には、総合的な学習の時間や特別活動の時間などさまざまな教育活動の場で活用できる20種類の道徳に関する教材及び展開例が掲載されている。添付のCD-Rには全データが記録されており、各校の実情に合わせてワークシートを加工して使用することもできる。

教材には「自己をみつめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の区分があり、それぞれ次のタイトルの教材がある（資料2）。

【資料2 『明日を拓く―人間としての在り方生き方を求めて―』の教材タイトル一覧】

- ・「自己をみつめる」…自立度チェック，自分調べ，マナーとエチケット，15年後の私，
見てはいけない手紙，あと一步の勇氣，沈みゆくボート，
トリアージタッグ
- ・「他者を理解する」…「他者」との出会い，コミュニケーション実験，上手に自己表現しよう！，
クラスメイトのいいところ探し，沙紀の悩み
- ・「社会と関わる」…〇〇高校を紹介しよう，みんなでつくる条例，青少年の問題行動，
赤ちゃんポスト，郷土の偉人 杉原千畝（すぎはらちうね），
外国人から見たニッポン，模擬国連

各教科等においても、それぞれの特質に応じた適切な道徳教育の実践が求められていることを踏まえ、授業において、『明日を拓く』を活用した道徳教育の実践を試みた。

ア 豊橋商業高等学校の実践（実践報告No.2参照）

第3学年の生徒を対象として、家庭科の科目「家庭基礎」の六つの単元において、『明日を拓く』の教材「自分調べ」「自立度チェック」「上手に自己表現しよう！」「青少年の問題行動」「15年後の私」「マナーとエチケット」「赤ちゃんポスト」「みんなでつくる条例」「トリアージタッグ」「郷土の偉人 杉原千畝」を活用し、1年間で計12時間の実践を行った（資料3）。家庭科の目標を踏まえ「将来の社会人・家庭人としての自覚をもたせ、道徳的実践力を身に付けさせる」ことをねらいとして、『明日を拓く』の三つの区分の教材を計画的に位置付けた。

グループワークを継続することにより、生徒たちは、自分で考え意見を述べる体験や、他人の意見を聞いて学ぶ体験、他人を尊重しながら主体的に判断する経験などを積み重ね、思考の深まりを実感したことが分かった。また、考えを深めるための情報収集を自ら行ったり、深まった考えを基に行動したりするなど、人間として成長している様子も見られた。

【資料3 「家庭基礎」の学習内容における『明日を拓く』の教材の位置付け】

章・章目	配当時間	ワークシート名	「明日を拓く」の教材名	学習のねらい（道徳関連のみ）	中学校における道徳の内容
1章 自分らしい人生をつくる	5/8	自分らしく生きるには	「自分調べ」 *	人は完成された人間ではないこと、周囲に受け入れられ支えられている存在であることに気付かせ、他者への感謝と思いやりの心を育む。	自主自律、誠実、責任、向上心、個性伸長、弱さの克服、生きる喜び
		青年期の課題・・・自立	「自立度チェック」	自立するための目標を設定する。	自主自律、誠実、責任
		コミュニケーションスキルを身に付けよう	「上手に自己表現しよう！」 * 「青少年の問題行動」	自分の考えや気持ちを理解し、配慮した伝え方ができる。 「してはいけない」問題行動をどのように相手に伝えるか考える。	自主自律、誠実、責任、人間愛、思いやり
		未来を生きる	「15年後の私」	社会における自分の立場や役割を考えることで、今をどのように過ごせばよいかを考える。	向上心、個性伸長、家族愛
		エチケットとマナーを考えてみよう	「マナーとエチケット」	日頃の行動を振り返り、人とのコミュニケーションの在り方を考え、行動できる。	基本的な生活習慣、節度、調和、向上心、個性伸長、礼儀
2章 子どもと共に育つ	2/10	子どもと生存権	「赤ちゃんポスト」	乳幼児にも「生存権」があることを知り、命の尊さについて考える。	人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、生命尊重
		持続可能な少子化・子育て政策	「みんなでつくる条例」	少子化問題や女性の就労と子育て支援に関する問題点を見つけ、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
3章 高齢社会を生きる	1/5	持続可能な高齢者政策	「みんなでつくる条例」	高齢者が健康で充実した生活を送るための住みよい持続可能な地域社会にすることを旨とし、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
7章 住生活をつくる	1/8	災害対策	「トリアージタッグ」 *	大災害時における困難な状況下における医療の難しさ、命の尊さ、生きることに対する意味など、「命」に対する価値観を考える。	生命尊重、立場の理解、寛容、謙虚
8章 家族・社会の共生	2/7	経済的に自立するための職業生活	「郷土の偉人 杉原千畝」	人の立場や状況により考え方が異なることを知り、今後の職業生活に生かすことができる。	自主自律、誠実、責任、正義、公正公平、勤労、奉仕、公共の福祉、生命尊重
		持続可能な環境政策	「みんなでつくる条例」	消費生活の中から環境に関する問題を見つけ、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、自然愛、畏敬の念、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
9章 生活を設計する	1/1	私の未来 家族と共に創る生活	「15年後の私」	生涯を見通した生き方を考えるとともに、家族とともに生活を創り上げるための生活設計を考える。	向上心、個性伸長、家族愛

配当時間における分子は、『明日を拓く』を活用した時間数を示す。

イ 豊田西高等学校の実践（実践報告No.3 参照）

第3学年の生徒を対象として、総合的な学習の時間において、『明日を拓く』の教材「郷土の偉人 杉原千畝」を活用し、実践を行った（資料4）。「生命の尊さ」「自主、自立」「真理の探究」などの道徳的価値について、杉原千畝の生き方を通して深く考えさせると同時に、調べ学習とグループワークを取り入れることにより、「自律の精神」「役割と責任の自覚」についても体験的に学ばせることができ、教材と学習形態の双方に道徳的視点を入れる方法の有効性についても示すことができた。生徒は実践後、今後の生き方に反映させたい、人間としてよりよく生きたいと思った、などの感想を記した。

【資料4 「郷土の偉人 杉原千畝」を活用した授業案】

1 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (5分)	本時のねらいを知る。	○資料①の内容を説明し、本時のねらいを示す。	
展開 (40分)	<p>1 資料『杉原千畝と「命のビザ」』（出典：「知っていましたか近代日本のこんな歴史」国立公文書館アジア歴史資料センター）を読む。</p> <p>2 作業① 杉原千畝の業績について最初の感想を記録する。</p> <p>3 杉原千畝が、戦後不遇な時代を過ごしたことを知る。</p> <p>4 作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについての感想を記録する。</p> <p>5 グループワーク① 6～7人のグループに分かれてタブレット端末を用いた調べ学習を行う。 調べて分かったことは、ワークシートに記録して次回の話し合いの材料を用意する。</p>	<p>○資料を読ませ、分からない言葉があれば質問するように指示する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○資料②の内容を説明する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○3グループは「当時のユダヤ人がおかれた状況」、3グループは「外務省が置かれた立場」、1グループは「外交官の仕事とは」というテーマを割り当てる。</p> <p>○次回は、グループを再編成して話し合いを行うことを予告して、充実した話し合いのためには、しっかりと調べる必要があることを伝える。</p>	
まとめ (5分)	ワークシートへの記入漏れがないか確認する。	○ワークシートを回収する。	

2 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (3分)	新しいグループに分かれて着席する。	○分担して調べた内容が共有されるように、前回の各グループから一人ずつを入れたグループに再編成する。 ○前回記入したワークシートを返却する。	
展開 (30分)	グループワーク② 前回調べた内容を互いに報告して情報を共有し、杉原千畝を取り巻く状況を明らかにする。	○司会者を「グループの中で誕生日が一番早い人」と指定して、日頃の人間関係とは無関係の役割を割り振る。 ○前回の調べ学習では、グループごとに異なるテーマについて調べており、今回のグループのメンバーは、それぞれが異なる情報を持っているはずなので、互いが調べた内容を報告してまとめるように指示する。	
まとめ (17分)	本日の話し合いを踏まえて、杉原千畝の生き方から学んだこと、考えたことをまとめる。	○机間指導をして、生徒の記入状況を確認する。 ○調べた内容にこだわり、杉原千畝の生き方から離れてしまわないように声をかける。	

ウ 松平高等学校の実践（実践報告No.4 参照）

第2学年の生徒を対象として、保健体育科の科目「保健」の「避妊法と人工妊娠中絶」の単元において、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を活用し、実践を行った（資料5）。道徳的視点からの単元の目標として、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことを設定した。グループワークを行う中で、生徒たちは、赤ちゃんポストの是非や在り方についてさまざまな気持ちや考えを表現し、他の人の意見を聞く活動を重ね、自分の考えが次第に深まっていったことを実感していた。

本年度の研究により、『明日を拓く』の教材は、それぞれ複数の教科において実践可能であることが分かった。例えば、本研究では、「家庭基礎」（家庭科）と総合的な学習の時間における実践で、「郷土の偉人 杉原千畝」を活用している。さらにこの教材は、地理歴史科や公民科の授業に組み込むことも可能である。このように、高等学校において道徳教育の推進を図るためには、さまざまな教科において『明日を拓く』の活用を進めることが有効と考えられる。

【資料5 「赤ちゃんポスト」を活用した保健の授業案】

1 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担になることを理解する。 人工妊娠中絶の是非について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書 P72 の「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、それは本当に大きな問題です。しかし、中絶をせずに出産するということも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味します」という記述を読ませ、人工妊娠中絶の是非について問いかける。 ○生徒の考えを誘導する発言を避けるように留意する。 	
展開 (35分)	<ol style="list-style-type: none"> 「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がもしそのような立場になったらどう考えるのかを想像して書くよう指示する。 ○難しく考えず、今の自分の考えを素直に表現するよう指示する。 ○机間指導を行い、生徒の取組状況を確認する。 	
まとめ (5分)	<ol style="list-style-type: none"> レポートを提出する。 次時の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組状況を評価する。 ○次時、結果を示し、命の尊厳について考えることを伝える。 	

2 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> レポート「人工妊娠中絶は是か非か」の結果を知る。 「赤ちゃんポスト」とは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結果を示すのみで、是非を言及しないよう留意する。 ○教材を用いて分かりやすく説明する。 ○命の尊厳を考えることがテーマであることを理解させる。 ○グループとしての意見を発表することを原則とするが、まとまらない場合は、出た意見を発表するだけでもよいこととする。 ○意見を否定するような話し合いにならないようにさせる。 	『明日を拓く』より「赤ちゃんポスト」を、ワークシートも含めて使用
展開 (35分)	<ol style="list-style-type: none"> 「赤ちゃんポスト」ワークシートに取り組む。 6 グループに分かれ、意見を出し合う。 出てきた意見を1グループ2分ほどで発表する。 		
まとめ (5分)	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな意見に触れることで、自分の考えを更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「赤ちゃんポスト」の是非ではなく、命の尊厳について考えさせることに留意する。 	

5 研究のまとめと今後の課題

(1) マイクロインサージョンの手法による道德教育の推進方法について

小・中学校と違って道德の授業時間が設定されていない高等学校においては、いつ、どこで道德教育を行うのがよいのかという時間捻出に関わる課題がある。その課題を解決する方法の一つが、マイクロインサージョンの活用である。実践報告No.1に示されているように、各教科・科目の学習目標の中に、道德的視点が含まれていることはよくある。マイクロインサージョンを活用した授業案の作成について学び、各教科・科目の学習を通して道德的なものの考え方・感じ方」を育む授業の在り方を知ることにより、各教科・科目の中で、無理なく道德教育を実践していくことができるようになる。実践報告No.1のように、校内研修等でマイクロインサージョンについて全職員が学ぶ機会をもつことにより、学校の教育活動全体を通じた道德教育の推進が可能になると考えられる。

(2) 『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』を活用した道德の授業実践について

第1次報告（平成25年度）で、『明日を拓く』を活用した国語科と家庭科における授業実践について報告したが、平成26、27年度は、総合的な学習の時間や保健体育科、工業科などに実践の対象を広げた。家庭科においては、多くの単元に道德としてのねらいを記した年間学習指導案の作成も行った。生徒たちは『明日を拓く』を活用した授業において、グループワークを中心としたインタラクティブな活動を行い、教科等の学習内容とともに道德的価値について考え、同時に、主体的に判断することや協働することの大切さを学んでおり、さまざまな教科等の学習の中で、『明日を拓く』を活用した実践が可能であることが示された。また、『明日を拓く』の中の同一資料を、異なる教科・科目等において、それぞれのねらいに応じて活用できることも示され、『明日を拓く』が汎用性の高い道德の指導参考資料であることが確かめられた。

(3) 今後の課題

マイクロインサージョンの手法を用いることや『明日を拓く』を活用することは、高等学校において教育活動全体を通じた道德教育を促進するために、大変有効な方策である。しかし、実際に各学校における道德教育が充実したものになるためには、こうした方策の有効性について教職員一人一人がよく知り、学校全体で取組への気運を高めていくことが欠かせない。そのためには、校内研修等を通じて、全教職員に、教育活動全体の中で道德教育を進めていく方策についての理解を促すと同時に、道德教育の全体計画を全職員の手によって改訂したり、実践事例の共有を図ったりして、道德教育を推進する意欲をより高める必要がある。

本研究の成果を基に、各学校において実践が積み上げられ、道德教育のさらなる充実が図られることを期待したい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』東洋館出版社、2008
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』日本文教出版、2008
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2009
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』2015
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』2015
- 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」2008

- 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」2014
- 徳永正直，堤正史，宮嶋秀光他『道徳教育論－対話による対話への教育－』ナカニシヤ出版，2003
- 加倉井隆編著『中学校新学習指導要領の展開 道徳編』明治図書，2008
- 沼田裕之，増淵幸男，伊勢孝之編著『道徳教育21の問い』福村出版，2009
- 田中耕治編『よくわかる教育評価 第2版』ミネルヴァ書房，2010
- 赤堀博行著『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社，2010
- 赤堀博行編著『心を育てる要の道徳授業 補充・深化・統合へのアプローチ』文溪堂，2010
- 林泰成，白木みどり『人間としての在り方生き方をどう教えるか～小中高12年間を通した道徳教育・キャリア教育～』教育出版，2010
- 愛知県教育委員会「明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－」2013

実践報告 No. 1

学校の教育活動全体を通じた道德教育の実践

－ マイクロインサーションを活用した各教科・科目等の特質に応じた道德教育 －

愛知県立岡崎工業高等学校 教諭 五十嵐崇文

1 はじめに

平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領では、学校の教育活動全体を通じて発達段階に応じた道德教育に取り組むことが示された。ことに、高等学校においては、生徒の発達の段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道德の時間が設けられていないこともあって、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の指導のための配慮が特に必要とされる。

このため、高等学校における道德教育の考え方として示されているのが、人間としての在り方生き方に関する教育であり、各教科・科目等の特質に応じた学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うものとしている。本校では平成24年度から、各教科・科目等の特質に応じた道德教育の実践として、マイクロインサーション（注1）を授業に採り入れている。この報告では、マイクロインサーションを活用した道德授業案の作成を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の導入から、道德教育の全体計画の見直し等、これまでに本校で取り組んできた道德教育の実践について報告する。

注1 マイクロインサーション

各科目の授業内容の中に、特定の内容を埋め込む手法。ここでは、各科目の授業内容の中に、道徳的な話題を埋め込むことを言う。毎時間行う必要はない。

2 生徒の実態

本校は、徳川家康公が生誕し、江戸幕府の礎を築いた三河武士発祥の地「岡崎」の南部に位置し、平成24年に創立百周年を迎えた工業高校である。全日制は、機械科、機械デザイン科、電気科、情報技術科、土木科、化学工業科の6学科、定時制は、機械科が設置されている。

本校では、人づくり教育として、儒教道德の五常（仁・義・礼・智・信）を根幹とし、礼節を重んじ、自らを律し、他とともにこころ豊かな生活を築く態度を養う中で、国家社会の有為な形成者としての工業技術者の育成を目指している。平成19年度からの3年間は、文部科学省と経済産業省の共同事業である「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」の指定を受け、地元産業界との交流を深めるとともに、本校生徒の技術・技能の高さを示すことができた。その結果、指定事業終了後も、地元産業界からの強い要望により、岡崎商工会議所が中心となり、「岡崎地区ものづくり基盤人材育成事業」として前事業を発展させる形で連携事業を継続させている。

また、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度では、平成20年度に全国10位となったのを最高位に、近年上位校の常連となっている。

生徒は地元「岡崎・幸田」地区出身者が多く、卒業後は地元企業に就職する者が多い。このため、中学校からは就職に強い高校として大きな信頼を得ている。

3 実践の経緯

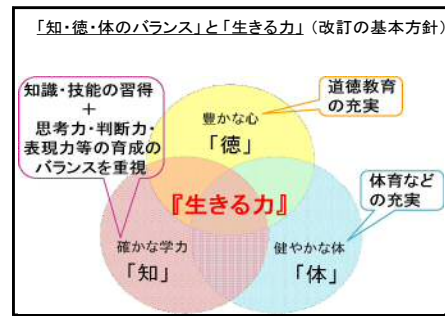
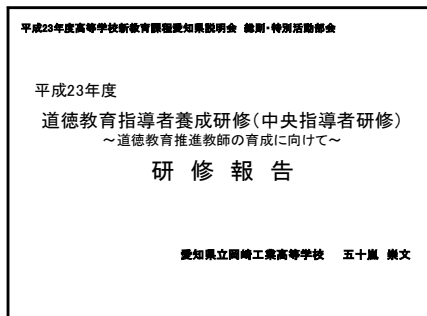
(1) 平成23年度の実践

ア 実践のねらい

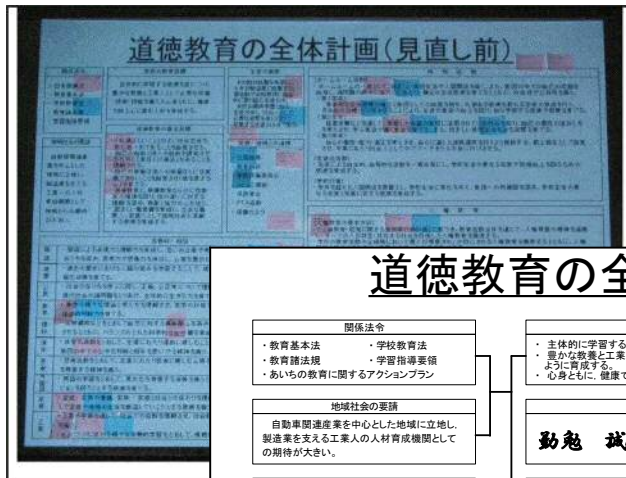
学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入するために、道徳教育に対する教職員の意識の高揚を図る。

イ 実践の内容

(ア) 校内現職研修にて、報告者が参加した道徳教育指導者中央研修の伝達講習を行った。



(イ) 一部の教職員により、道徳教育の全体計画の見直しを行った。



(2) 平成24年度の実践

ア 実践のねらい

マイクロインサーションを活用した授業実践を導入するために、マイクロインサーションに対する教職員の理解を深める。

イ 実践の内容

(ア) 初任者研修と5年経験者研修を兼ねて、有志によるマイクロインサーションを活用した授業案の作成を中心に、計3回の勉強会を開催した。

第1回（平成24年10月11日 参加者14名）

- 道德教育につながる授業内容の洗い出しを行った。
- グループワークトレーニングとして、道德教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第3節 社会と関わる の「〇〇高校を紹介しよう」（注2）を教職員バージョンとして行った。言語活動を通じた授業改善の手法として、ブレイン・ストーミング（注3）とKJ法（注4）についても学んだ。
- キャリア教育について、疑問点を挙げることを次回までの課題とした。

注2 「〇〇高校を紹介しよう」

学校には、それぞれ長い間に培われた独自の校風や伝統がある。生徒が自校を紹介するという試みを通して、学校の特色や魅力を再認識することで、学校に愛着や誇りをもたせ、学校の一員としての自覚を高めさせるためのグループワークトレーニング。

注3 ブレイン・ストーミング

集団（小グループ）によるアイデア発想法の一つで、会議の参加メンバー各自が自由奔放にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して、連想を行うことによって、更に多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のこと。その背景には「本人にとってはつまらないアイデアに思えても、他の出席者には別の素晴らしいアイデアをひらめかせるかもしれない」という考えがあり、自由な発想でアイデアを生み出すことで、他のメンバーの頭脳に刺激を与えることを狙う。「ブレイン（頭脳）で問題にストーム（突撃）すること」＝Brain Storming として、このように呼ばれる。省略して、「ブレスト」、「BS」などともいう。

注4 KJ法

無秩序で雑然とした定性データ（事実、意見、アイデア）群を一旦カードや付箋紙などに分解し、これを人間の直観力を用いて図解・文章に統合することで、意味や構造を読み取り、まとめていく方法及び思想の体系。漠然としてつかみどころのない問題を明確にしたり、思いもしない解決策・新しい発想を得たりするために用いられる。個人の思考と集団のそれをほとんど区別しないため、個人の発想技法としてだけではなく、複数の人間による共同作業、合意形成などにも使われる。

第2回（平成24年12月3日 参加者19名）

- 道徳教育につながる授業内容の洗い出しを行った。
- グループワークトレーニングとして、道徳教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第1節 自己をみつめる の「見てはいけない手紙」（注5）を、二人一組でそれぞれA子、B子の立場になって体験した。その後、4～6名のグループで生徒の気持ちを推測するなどのディスカッションを行い、生徒から相談された場合の各自の立場に応じた具体的な対応について考えることを次回までの課題とした。
- キャリア教育について、前回の課題であるキャリア教育の疑問点を集約した。

注5 「見てはいけない手紙」

部室に落ちていた手紙を何気なく読んでしまったA子。手紙はC子からB子へ宛てたもので、内容は試合のメンバーからA子を外そうとするものであった。A子は何も見なかったふりをして手紙を落ちていた場所に戻した。翌日、B子はその手紙を拾って読んだ。

複数の行動の選択肢があり、どれも正しく思われ、判断や選択に悩むことがある。A子とB子それぞれの立場でどのような行動をとるかを考えさせ、自明のこととしていた価値観の問い直しにせまるためのグループワークトレーニング。

第3回（平成25年1月7日 参加者11名）

- 初任者が作成中の学習指導案を題材にして、マイクロインサージョンを活用した授業案を参加者全員でよりよいものに仕上げた。

【修正前の授業案】

【教科・科目名：工業（土木）・土木基礎力学】	
【作成者：〇〇〇〇】	
実施学年	2年
主 題 名	安全第一
内容項目	4-(5) 勤労
資 料 名	『土木基礎力学1』（実教出版）
ね ら い	<p>【教科的視点】 設計上、材料に生じる応力を、ある一定限度以下に制限する重要性を理解させる。また、各種材料の安全率を理解させる。</p> <p>【道徳的視点】 建設現場で必ず安全第一の標識を目にする。これは職場において作業者の安全が何よりも優先されるというスローガンである。品質や生産よりも安全が優先されることを理解させる。</p>
展開の概要	学 習 活 動
	導 入
	展 開
	終 結
	指 導 上 の 注 意 点
	評 価
	評 価 の 方 法
【教科的視点】 許容応力度、安全率を理解し、実際に使うことができる。	【教科的視点】 練習問題を解かせて評価する。
【道徳的視点】 安全ということがすべてにおいて優先されることを理解できる。	【道徳的視点】 授業中の発言によって評価する。
他の教育活動との関連	授業の反省・感想・課題
実習にて危機管理や安全に作業することを学ぶ。	

【修正後の授業案】

【教科・科目名 : 工業(土木)・土木基礎力学】			
【作成者 : ○○ ○○】			
実施学年	2年	実施時期	11月
主題名	安全+第一 — 余裕無くして安全はあり得ない —		
内容項目	1-(1)基本的な生活習慣 2-(3)信頼・友情		
資料名	『土木基礎力学1』(実教出版)		
ねらい	【教科的視点】 設計上, 材料に生じる応力を, ある一定限度以下に制限する重要性を理解させる。また, 各種材料の安全率を理解させる。 【道徳的視点】 日頃の生活習慣に, 安全率=余裕をもった行動, ということ当てはめ, 提出物の期限や集合時間に余裕をもった行動をすることが大切であることを理解させる。		
展開の概要	学 習 活 動		指導上の注意点
	導 入	許容応力度, 安全率について理解する。	部材が破断しないよう, 部材に生じる応力を一定限度以下に制限する必要があることを説明する。
	展 開	教科書 P135 の例題 3 を解く。 例題 3 を参考に, 問 4, 問 5 を解く。	机間指導をして, 生徒の理解度を確認する。 生徒自身に問題を解かせて, 解答, 解説をする。 生徒の理解度を確認する。
	終 結	各種材料の許容応力度, 安全率を定める意義を理解する。	構造物の設計に際し, 応力に許容応力度を設ける意味を理解させ, 安全率の概念を定着させる。
評 価		評 価 の 方 法	
【教科的視点】 許容応力度, 安全率を理解し, 実際に使うことができる。 【道徳的視点】 日常生活の中でも余裕をもった行動が大切であることが理解できる。		【教科的視点】 練習問題を解かせて評価する。 【道徳的視点】 授業中の発言によって評価する。	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
実習にて危機管理や安全に作業することを学ぶ。		安全という項目で, 工業的な発送に偏りすぎてしまった。授業の中だけの指導ではなく, 日頃の生活の中でも指導できる内容を考えるべきであった。	

- グループワークトレーニングとして, 道徳教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第1節 自己をみつめる の「見てはいけない手紙」の前の課題である, 生徒から相談された場合の各自の立場に応じた具体的な対応について, 個々に発表した。
- キャリア教育について, 前回集約したキャリア教育の疑問点に関わり各自が調べてきた内容をプリントにて配付した。
- (イ) 平成23年度の道徳教育の全体計画の見直しに参加した教職員の多くが, マイクロインサーションを活用した授業案を作成したため, 平成23年度とは異なるメンバーで道徳教育の全体計画の見直しを行った。

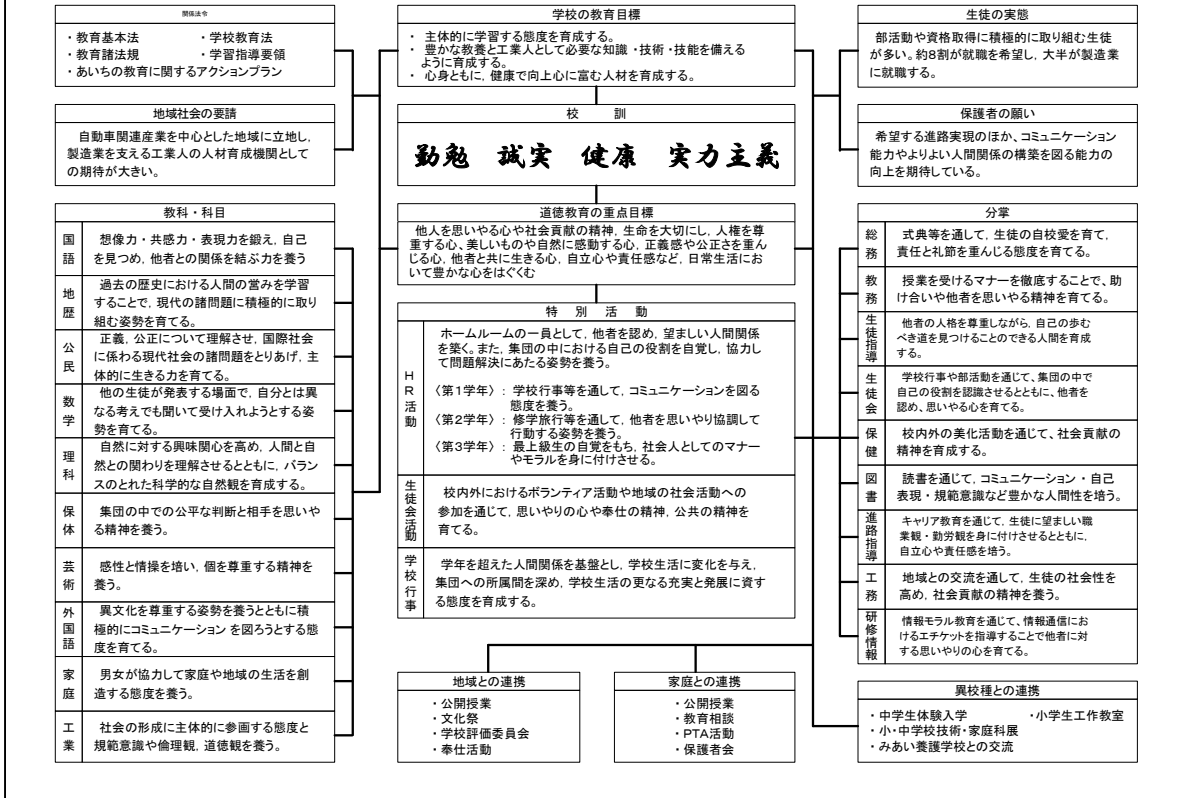


【KJ法を用いたグループワークの様子】

道徳教育の全体計画の見直し作業参加者	
平成23年度	平成24年度
教師A(国語・図書)	教師N(国語・教務) 転任者
教師B(社会・教務)	教師O(社会・教務) 転任者
教師C(数学・研修)	教師P(数学・多)
教師D(理科・総務)	教師Q(家庭・生指)
教師E(英語・保健・相談)	教師R(家庭・生指)
教師F(保健・体育)	教師S(機械・生指) 初任者
教師G(数学・1年・工務)	教師T(機テ・工務) 5年経験者
教師H(電気・進路)	教師U(電気・2年) 5年経験者
教師I(情報・生徒会)	教師V(情報・研修)
教師L(土木・2年)	教師W(土木・生徒会) 初任者
教師M(化学・教頭)	教師X(化学・1年) 5年経験者
五十嵐(電気・生指)	教師Y(化学・進路) 初任者

教職員84名のうち, 25名が道徳教育の全体計画の見直しを経験 (平成24年度)

道徳教育の全体計画(見直し前)



道徳教育の全体計画(見直し後)



(3) 平成25年度の実践

ア 実践のねらい

- (ア) 初任者の道德教育に対する意識の高揚を図るとともに、マイクロインサージョンを活用した授業案の作成に対する理解を深める。
- (イ) 学校行事等においても道德教育の観点を取り入れることにより、教育活動全体を通じて道德教育を行うことに対する教職員の意識の高揚を図る。

イ 実践の内容

- (ア) 平成25年度の初任者の研究授業の内容に、自己の基本的な生活習慣並びに他者への思いやりの道徳的内容が含まれていたため、マイクロインサージョンを活用した授業案を作成した。

学 習 指 導 案							
				教科指導員 教諭 ○○ ○○			
				指 導 者 教諭 ○○ ○○			
1	日 時	平成25年6月26日(水) 第6限					
2	学 級	電気情報技術科1年B組					
3	場 所	教室					
4	科 目	保健体育(保健)					
5	指導教科書	現代高等 保健体育(大修館書店)					
6	副 材 料	現代高等 保健体育ノート(大修館書店)					
7	指導単元	現代社会と健康(生活習慣病とその予防)					
8	単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択して実践し、自らの健康をコントロールし、改善することが重要であることを理解する。 ・具体的な生活習慣病の例を挙げ、説明できるようにする。 ・日常の生活習慣について確認し、自分の生活習慣を見つめ直す。 					
9	本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な生活習慣病の例を挙げ、説明できるようにする。 ・日常の生活習慣について確認し、自分の生活習慣を見つめ直す。 					
10	学習指導案						
段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
				関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解
導入	始業の挨拶	始業の挨拶を行う。	身だしなみを確認し、挨拶させる。				○
展開	生活習慣病について	教科書P16「①生活習慣病とは」を読む。	成人病と呼ばれてきた経緯と、生活習慣病と言われるようになった経緯を説明する。				○
	生活習慣病の予防について	教科書P17「②生活習慣病の予防」を読む。 自分の食生活でいけないと思う点を二つ見つける。	がんの原因の6割が喫煙と食事によるものだと確認させる。 一次予防と二次予防について理解させる。 自分や他人の生活習慣を振り返り、健康的な生活習慣を選択し、実践していく大切さを伝える。		○		
終結	本時のまとめ	本時の内容を振り返る。	教科書を開いていることを確認し、話を聞く姿勢をとらせる。				
	次回の予告	次回の学習内容を知る。	テスト範囲を伝える。				
	終業の挨拶	終業の挨拶を行う。	身だしなみを確認し、挨拶させる。				
11	ご高評						

【学習指導案を基に作成した授業案】

【教科・科目名 : 保健体育・保健】		
【作成者 : ○○ ○○】		
実施学年	1年	実施時期 6月
主 題 名	生活習慣（食生活）について考えよう	
内容項目	1-(1)基本的な生活習慣 2-(2)人間愛・思いやり	
資 料 名	『現代高等保健体育』（大修館書店）	
ね ら い	【教科的視点】 自分の生活習慣を改めて見直すことにより、問題点を発見させ、改善することができるようにする。また、生活習慣の問題点を他者に相談することにより、新たな改善策に気付かせる。 【道徳的視点】 自分の生活習慣を改善することにより基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、他者の問題点に際し、改善策を考えさせることにより、相手への思いやりの気持ちを意識させる。	
展開の概要	学 習 活 動	
	導 入	生活習慣（ここでは食生活について）を見直す。 問題点をプリントに記入する。
	展 開	自分の問題点について改善策を考え、プリントに記入する。 プリントを隣と交換し、相手の問題点について、改善策を考え、記入する。
	結 束	互いに考えた改善策について、相手に分かりやすく伝える。
	指 導 上 の 注 意 点	
	自分の問題点について、具体的にプリントに記入するように伝える。	実現可能な改善策を考えさせる。 相手のことを考え、効果的で実現可能な改善策を考えさせる。
	相手のことを思い、改善策を考えていることを理解させる。	相手のことを思い、改善策を考えていることを理解させる。
評 価		
【教科的視点】 問題点について効果的な改善策を考えることができる。		【教科的視点】 プリントにしっかり記入できているかによって評価する。
【道徳的視点】 相手のことを思いやり、改善策を考えることができる。		【道徳的視点】 相手のことをしっかり考えて改善策を記入できているかプリントで評価する。
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題
家庭科や体育等で、生活習慣や健康増進について考えを深める。		相手に考えた改善策を説明する時間を多く取れなかった。また、全体に発表させ、意見交換を行えばよかったですと思いました。

(イ) 職員会議等における学校行事等の提案時に、道徳教育の観点からの目的を併記することとした。

分掌提案事項 あるいは 活動内容	離任式	入学式	始業式	生徒対面式	新入生オリエンテーション	HR役員	小学生登校ボランティア	球技大会	3年生進路ガイダンス	修学旅行	2年生進路懇談会	3年生進路講話	AED講習会	中学生体験入学	小学生ミニマイコンカー制作教室	防災訓練	体育大会	生徒会役員選挙立会演説会	生徒会役員離・就任式	岡崎市技術・家庭科展	生活安全講話	岡工祭	薬物乱用防止講話	卒業式	生活体験発表会	
																										道徳の内容項目
1 主として自分自身に関すること	(1) 基本的な生活習慣 節度 調和																									
	(2) 希望・勇氣 強い意志																									
	(3) 自主自律 誠実 責任																									
	(4) 真理愛 理想の実現																									
	(5) 向上心 個性伸長																									
2 主として他の人とかかわりに関すること	(1) 礼儀																									
	(2) 人間愛 思いやり																									
	(3) 信頼 友情																									
	(4) 異性の理解																									
	(5) 立場の理解 寛容 謙虚																									
	(6) 尊敬 感謝																									
3 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること	(1) 生命尊重																									
	(2) 自然愛 畏敬の念																									
	(3) 弱さの克服 生きる喜び																									
4 主として集団や社会とかかわりに関すること	(1) 法の遵守 権利義務																									
	(2) 公德心 社会連帯																									
	(3) 正義 公正公平																									
	(4) 役割と責任の自覚																									
	(5) 勤労 奉仕 公共の福祉																									
	(6) 家族愛																									
	(7) 愛校心																									
	(8) 郷土愛																									
	(9) 愛国心																									
	(10) 国際理解 人類愛																									

【学習指導案を基に作成した授業案】

【教科・科目名 : 工業(土木)・土木施工】			
【作成者 : ○○ ○○】			
実施学年	2年	実施時期	10月
主 題 名	土工機械についてのグループワークによる言語活動の充実について		
内容項目	2-(1)礼儀 4-(4)役割と責任の自覚		
資 料 名	自作ワークシート, 振り返りシート		
ね ら い	【教科的視点】 グループワークを通して, 工事別に土工機械の種類や特徴について学び, 興味をもたせ, 理解を深めさせる。 【道徳的視点】 グループワークを通して, 自分の意見を自分の言葉で的確に相手へ伝えさせ, 相手の話を聞くときには相手の方を向き聞く態度をとらせる。また, 班の中で各自役割をもつことで, 責任をもって行動させる。各班の発表が終わったら, 必ず拍手をさせ, 発表者が気持ちよく終われるような環境にする。		
展開の概要	学 習 活 動		指導上の注意点
	導 入	各種工事の土工機械についての名称や特徴をグループワークにより, 知識を共有する。	実際に工種によってどのような機械が使用されているかを自分たちで調べることで, 理解を深めさせる。
	展 開	グループごとにグループワークを行わせ, 発表の準備をする。 全員の前に出て, スクリーンに土工機械を映しながら, 班でまとめたことを発表する。	調べた内容を的確に伝えられるよう工夫させる。 発表者は聞き手が聞きやすいように, 聞き手は発表者が話しやすいように, お互いの気持ちを考えさせる。
	終 結	工事別の土工機械を学ぶことで, どのような場面でどんな機械が使用されているか意識する。	振り返りシートを記入させる。発表時の工夫を凝らすことで, 土工機械への興味を高め, コミュニケーションのとり方も意識付ける。
評 価		評 価 の 方 法	
【教科的視点】 土工機械への興味関心ができ, 作業ごとに適する土工機械を判断できる。 【道徳的視点】 伝えたい思いを的確に相手に伝えられるか。また, 他者の気持ちを理解できるか。		【教科的視点】 機械の写真と機械名, 作業が一致するか。 【道徳的視点】 グループワークに積極的に参加しているか机間指導をしながら評価する。また, 発言中の声の大きさ, 態度で評価する。	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
グループワークを行うという点では, すべての教科と関連する。		クラスメートが発表することで, 土工機械に関する興味関心を高め, 知識を深めさせることができた。また, コミュニケーション能力を向上させることもできた。機会を増やし, 他の活動とも関連付け, 継続していきたい。	

4 実践のまとめと考察

(1) 道徳教育の全体計画の見直し

道徳教育の全体計画は生徒の発達段階に応じて見直しをされるべきものであるため, 毎年見直されるべきものである。また, 計画の実践という観点からもP D C Aサイクルに基づいて, 毎年見直しをするべきものである。その際, 道徳教育に対する教職員の意識の高揚を図る目的で, 全教職員で行うことが望ましいが, 本校では時間的な制約などにより, 平成23年度と24年度に, 一部の教職員で行うことしかできなかった。しかし, 平成24年度末の時点で, 2度の見直しに参加した教職員25名のうち, 15名が24のマイクロインサクションを活用した授業案を作成している。これは, 参加していない59名のうち, 16名が17の授業案を作成したことと比較すると, 見直しに参加した教職員の道徳教育に対する意識の高さを示すものと言える。

(2) マイクロインサーションを活用した授業案の作成

授業を行う前にマイクロインサーションを活用した授業案を作成することは、かなり困難なことと思われる。そこで、本校では学期末の成績会議等の際に、洗い出しという表現を用いて、担当する授業の中で道徳的な内容につながるものを振り返ってもらうようにした。それをマイクロインサーションを活用した授業案として作成し、全教職員が閲覧できるよう教職員用の校内ネットワークに掲載することとした。他教科の内容でも自分が担当する教科の内容につながるものも多く、マイクロインサーションを活用した授業案を作成する上で参考となったようである。

また、初任者研修や5年経験者研修における研究授業を参観すると、授業者が気付いていない道徳教育につながる内容を発見することがあった。こうした際、マイクロインサーションを活用した授業案を作成するよう助言した。授業者が見逃している道徳教育につながる内容は多いと思われる。機会あるごとに洗い出しを依頼することは、マイクロインサーションを活用した授業案の作成のみならず、教職員の道徳教育に対する意識の高揚を図る有効な手だてと考えられる。

(3) 道徳教育指導参考資料『明日を拓く』を活用したグループワークトレーニング

本校では、総合的な学習の時間を課題研究で代替しており、道徳教育指導参考資料『明日を拓く』を使用する時間はホームルームの時間に、担当者はホームルーム担任に限られてしまう。しかし、経験の浅い担任は、グループワークトレーニングの指導に不安を抱き『明日を拓く』を活用することに戸惑っているようであった。そこで、担任の指導力向上を目的として、勉強会にて『明日を拓く』を教職員バージョンとして使用した。これは『明日を拓く』が生徒の実情に合わせてアレンジしてもよいことを示すとともに、グループワークトレーニングを採り入れることで、勉強会を堅苦しいものとしないうちでもあった。その結果、勉強会の参加者からは、おおむね好評を得た。

(4) 学校行事等における道徳教育の実践

平成25年度から学校行事等においても道徳教育の観点を取り入れる目的で、職員会議等における学校行事等の提案時に、道徳教育の観点からの目的を併記することとした。現在では、ほとんどの提案事項に道徳教育の観点からの目的が併記されるようになった。これは、提案者の多くが分掌主任であり、道徳教育に対する意識が高いことを示している。しかし、実際に生徒を指導する担任あるいは係の教職員が、道徳教育の観点をもって生徒を指導しているかは、十分には把握できていない。学校行事を終えた際の教職員に対する反省・アンケートに、道徳教育の観点をもって業務に当たったかという項目を追加することで、次の学校行事の際に道徳教育の観点をもって業務に当たる意識を高揚させるのも一つの手だてと考えられる。

5 成果と課題

(1) 教職員の変容

教職員に対する学校評価アンケートには道徳教育に関する項目がないため、教職員の意識の変化などを示すことはできない。しかし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入することでさまざまな成果が見られたので、次に示す。

- 学年会でL T時に『明日を拓く』を活用するようになった。
- 10年経験者研修該当者がL Tを利用し『明日を拓く』を使用して研究授業を行った。
- 学年集会などでの分掌主任の講話に道徳的な内容が多く含まれるようになった。
- 生徒会主催のボランティア活動に参加、協力する教職員が増えた。

- 学年会でキャリア教育に関する研究を行い、キャリア教育の全体計画の作成を試みている。
- 工業科目「工業技術英語」担当者会に英語科教員全員が出席し、支援・協力した。

(2) 学校評価アンケートに見る保護者の学校に対する評価（抜粋）

No.	質問項目	年 度				
		2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
1	本校は充実した教育をしている と思いますか。	9 2	8 8	9 2	8 8	8 4
		9 0 . 0		8 8 . 0		
2	お子様は明るい学校生活を送って いると思いますか。	9 1	9 5	9 4	9 3	9 3
		9 3 . 0		9 3 . 3		
4	本校は地域から信頼されている学校、 開かれた学校であると思いますか。	8 0	7 6	8 6	8 0	8 5
		7 8 . 0		8 1 . 7		
5	教科指導では、基礎・基本から 確実に身につけていると思いますか。	7 7	7 0	8 0	8 1	7 3
		7 3 . 5		7 8 . 0		
6	お子様は入学当初と比べ、学力を 伸ばしていると思いますか。	6 0	6 3	7 3	6 5	6 3
		6 1 . 5		6 7 . 0		
7	お子様は入学当初と比べ、社会性を 身につけていると思いますか。	7 8	7 9	8 8	8 4	8 2
		7 8 . 5		8 4 . 7		

数値は肯定的回答[%] 下段は平均値

平成21年度以前は質問項目及びアンケート方法が若干異なるため、平成22年度以降のものを採用し、平成23年度の途中から学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入しているため、平成23年度以前の2年間と平成24年度以降の3年間の平均値をデータに加えている。なお、アンケートの方式は平成24年度のみ全数調査で、平成24年度以外は各クラス4名の保護者とPTA専門委員による抽出調査である。

質問項目は全部で15項目であるが、道徳教育を導入した成果につながる質問項目としてNo.4からNo.7を抜粋した。なお、アンケート対象保護者に著しい差異はないことを示すものとして、質問項目No.1とNo.2を表に加えた。質問項目No.4からNo.7以外では平成23年度以前と平成24年度以降の平均値で比較すると、平均0.86ポイントの上昇である。それに対し、質問項目No.4からNo.7では平成23年度以前と平成24年度以降で平均すると、5ポイント近く上昇している。この結果には、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入したこと以外にも、生徒指導、学習指導、地域連携事業などのさまざまな要因が影響していると考えられる。しかし、保護者も生徒の変化を感じ取っている様子は十分にうかがえる。

6 おわりに

本校は工業高校ということもあり、以前より工業科目の多くに技術者倫理の内容が盛り込まれていた。技術者倫理の根底にあるものは道徳心であり、日頃から技術者倫理を通じた道徳教育的指導をする機会には恵まれていた。すなわち、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入する環境はあったと言える。しかし、高等学校には道徳の時間はなく、加えて本校では総合的な学習の時間を課題研究で代替しているため、道徳教育を行う場面は限られていた。このため、まず初めに各教科・科目等の特質に応じた道徳教育の実践として、マイクロインサクションを活用した授業を導入したことが、比較的抵抗感なく学校の教育活動全体を通じた道徳教育の導入につながったと考えている。

また、本校では生徒の多くが卒業と同時に地元産業界に就職するため、入学時より充実したキャリア教育を行ってきた。平成23年11月に文部科学省より発行された『高等学校キャリア教育の手引き』にも、キャリア教育の教育課程における位置付けとして、道德教育との関連が示されている。これによれば、高等学校では、小・中学校における道德教育を踏まえつつ、道德教育をキャリア教育と組み合わせながら実践していく必要がある、とのことである。進路指導部主催の学校行事を中心として、キャリア教育に関する指導の場面は多く、既に道德教育の内容が含まれたものから、道德教育の内容を盛り込みやすいものが多い状況であったことも、学校の教育活動全体を通じた道德教育の導入につながったと考えている。

本実践報告は、学校の教育活動全体を通じた道德教育を導入しやすい環境にある工業高校におけるものであるが、道德教育「人間としての在り方生き方に関する教育」が全ての高等学校で求められている現在、今回の報告がその一助となることを願っている。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月告示
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』平成21年11月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』平成21年12月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』平成21年12月
- 文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』平成23年11月
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』平成20年9月
- 愛知県教育委員会『明日を拓く 一人間としての在り方生き方を求めてー』平成25年3月

実践報告 No. 2

「家庭基礎」における道德的実践力の育成 — 道德教育指導参考資料『明日を拓く』を活用した実践 —

愛知県立豊橋商業高等学校 教諭 小島 佳世

1 はじめに

平成21年公示の学習指導要領では、学校教育活動全体を通して道德教育を推進していくことが示された。特に高等学校段階では、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるよう、各教科等の特質に応じ、適切な指導を行うことが求められている。

道德の学習の柱である「自己を知る」「他者を理解する」「社会と関わる力を育成する」に関連した内容は、教科「家庭」に関する各科目の学習内容の中にも多くある。本校では、「家庭基礎」の学習内容に、意図的、計画的に道德的な思考・判断・表現を採り入れた学習を展開している。今年度は、愛知県教育委員会が作成した道德教育指導参考資料『明日を拓く』を活用した実践を行った。この中から三事例を取り上げ、紹介する。

2 生徒の実態と本実践のねらい

本校は愛知県の南東部、豊橋市の中心に位置する、1学年4学科7クラスの単独商業高校である。男女比は2：8と女子生徒が多く、部活動も全国大会や国体に出場するなど活発で、精神健康度も高く、落ち着いた環境で教育活動が行われている。生徒の学習成果の指標の一つとなる各種検定試験では、国家資格や高位の検定資格を取得するなど、学業においてもすばらしい成果を上げている。

昨年度「高等学校教育指導資料(平26-11号)」に、本校生徒の道德性に関する実態調査の結果を掲載した。その中で、「道德性は教えなければ育たない面もあり、高等学校段階においても状況に応じた道德的な思考について指導するとともに、実践力に結び付けることも必要である」という分析結果を得た。

そこで、昨年度から実施している、道德教育の視点を踏まえた教育活動を、「家庭基礎」の各単元において実施するとともに、特に今年度は、『明日を拓く』の教材を家庭科の単元構想に組み込み、教科における道德教育を実践した。この取組を通じて、生徒自身に将来の社会人・家庭人としての自覚をもたせ、道德的実践力を育成することをねらいとした。

3 『明日を拓く』の教材の「家庭基礎」の学習への組み込み

本校は、「家庭基礎」を第3学年で3単位履修している。表1は、「家庭基礎」の学習内容における、『明日を拓く』の教材の位置付けを示したものである。単元・小項目は、「家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）」を基本に記載した。また、この表内の学習のねらいは、道德教育に関連した部分を抜き出した。

表1 「家庭基礎」の学習内容における『明日を拓く』の教材の位置付け

章・章目	配当時間	ワークシート名	「明日を拓く」の教材名	学習のねらい (道徳関連のみ)	中学校における道徳の内容
1章 自分らしい人生をつくる	5/8	自分らしく生きるには	「自分調べ」*	人は完成された人間ではないこと、周囲に受け入れられ支えられている存在であることに気付かせ、他者への感謝と思いやりの心を育む。	自主自律、誠実、責任、向上心、個性伸長、弱さの克服、生きる喜び
		青年期の課題・・・自立	「自立度チェック」	自立するための目標を設定する。	自主自律、誠実、責任
		コミュニケーションスキルを身に付けよう	「上手に自己表現しよう!」*	自分の考えや気持ちを理解し、配慮した伝え方ができる。	自主自律、誠実、責任、人間愛、思いやり
		未来を生きる	「15年後の私」	社会における自分の立場や役割を考慮することで、今をどのように過ごせばよいかを考える。	向上心、個性伸長、家族愛
		エチケットとマナーを考えてみよう	「マナーとエチケット」	日頃の行動を振り返り、人とのコミュニケーションの在り方を考え、行動できる。	基本的な生活習慣、節度、調和、向上心、個性伸長、礼儀
2章 子どもと共に育つ	2/10	子どもと生存権	「赤ちゃんポスト」	乳幼児にも「生存権」があることを知り、命の尊さについて考える。	人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、生命尊重
		持続可能な少子化・子育て政策	「みんなでつくる条例」	少子化問題や女性の就労と子育て支援に関する問題点を見つけ、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
3章 高齢社会を生きる	1/5	持続可能な高齢者政策	「みんなでつくる条例」	高齢者が健康で充実した生活を送るための住みよい持続可能な地域社会にすることを旨とし、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
7章 住生活をつくる	1/8	災害対策	「トリアージタッグ」*	大災害時における困難な状況下における医療の難しさ、命の尊さ、生きることに対する意味など、「命」に対する価値観を考える。	生命尊重、立場の理解、寛容、謙虚
8章 家族・社会の共生	2/7	経済的に自立するための職業生活	「郷土の偉人 杉原千畝」	人の立場や状況により考え方が異なることを知り、今後の職業生活に生かすことができる。	自主自律、誠実、責任、正義、公正公平、勤労、奉仕、公共の福祉、生命尊重
		持続可能な環境政策	「みんなでつくる条例」	消費生活の中から環境に関する問題を見つけ、住民参加型条例づくりの体験を通して、互いの権利や立場を尊重したよりよい地域社会の実現に向けて積極的に取り組む意欲や意識をもつ。	真理愛、理想の実現、人間愛、思いやり、立場の理解、寛容、謙虚、自然愛、畏敬の念、弱さの克服、生きる喜び、郷土愛
9章 生活を設計する	1/1	私の未来 家族と共に創る生活	「15年後の私」	生涯を見通した生き方を考えるとともに、家族とともに生活を創り上げるための生活設計を考える。	向上心、個性伸長、家族愛

配当時間における分子は、『明日を拓く』を活用した時間数を示す。

*実践報告で紹介する内容

4 実施方法

(1) 対象と実施時期

第3学年全員（各年度），平成26年4月～平成27年9月

(2) 教育課程上の位置付け

家庭科，「家庭基礎」（3単位）にて実施

(3) 使用教科書

『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍）

5 実践報告

科目「家庭基礎」において、『明日を拓く』の題材を使用した実践例を三つ紹介する。【指導展開】における「指導上の留意点」については，道徳に関連した部分のみ記載した。【留意事項】は実施後に気付いたことなども含め記載した。

(1) 実践①

【単元名】 第1章 自分らしい人生をつくる

【『明日を拓く』から使用する教材】 第2章 第1節 自己をみつめる 「自分調べ」

【単元の指導時間】（8時間完了）本時 1/8

- 1 生涯発達の視点……………1（本時）
- 2 青年期の課題……………1
- 3 目標をもって生きる……………2
- 4 人生をつくる……………1
- 5 家族・家庭を見つめる……………1
- 6 これからの家庭生活と社会……………2

【題材】 「自分らしく生きるには」（ワークシートタイトル）

【題材の目標】

（教科の視点）日頃の生活を振り返り，この1年間で身に付けることの目標を立てる。

（道徳の視点）人は完成された人間ではないこと，周囲に受け入れられ支えられている存在であることに気付かせ，他者への感謝と思いやりの心を育む。

【学習活動と道徳の内容項目】（中学校の分類による）

1 主として自分自身に関すること

（自主自律・誠実，責任）自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ(1-(3))。

（向上心，個性伸長）自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する(1-(5))。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

（弱さの克服，生きる喜び）人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きること喜びを見いだすように努める(3-(3))。

【指導展開】

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入	1 本時の目標と学習内容を知る。	○自己分析を行いこれまでの生き方を振り返り、今後の生き方を考えることを伝える。	
展開	1 小中学校時代の学習内容 2 家での役割 3 「家庭基礎」の学習内容と評価 4 自分のタイプを知る。 5 自己分析をする。 6 灰谷健次郎著「せんせいけらいになれ」を読む。 (1) 自分の悪い面を書き出す。 (2) 自分の悪い面に関する気持ちの変化や行動の傾向を分析する。	<省略> <省略> <省略> ○チャートでチェックし自分がどのようなタイプの間か気付かせる。 ○自分自身の性格・行動力・考え方などについて分析させ、箇条書きで記述させる。 ○資料を読ませる。 ○いつ、誰に対して、嘘をつく・嫌がらせをするなどの言動をしたかを思い出させ、記録させる。 ○文字にしたくないことは☆印を書かせる。 ○自分の悪い面を思い出すことで、不愉快だったと感じたときの気持ちを、感じたままに書き出させる。 ○どのようなときに自分が悪い行動をとるかを分析させる。 ○悪い言動をしてしまった相手に、今どのような気持ちを抱いているかを書かせる。	ワークシート5 ワークシート6 ワークシート7 ワークシート7(1) ワークシート7(2)～(6)
終結	1 本時のまとめ 2 自己評価	○自分自身を分析した感想と今後の生き方について考えさせる。 ○自己評価をさせる。	ワークシート8 自己評価

【展開の工夫】

- 教科の内容と『明日を拓く』の教材を採り入れたワークシートを準備した（資料1）。
- 自分を知るための導入として、簡単な自己診断チャートを準備した。
- 自己分析を行うに当たり、先に自分のよいところから分析させ、後からこれまでの自分の嘘や偽りの行動を思い出させるようにした。
- 自分の隠れている部分を探り、自分自身の考え方や行動の傾向を分析することで、過ちや嫌な行動を繰り返さなくなり、状況に応じたよりよい対処ができるようになる。そのことに自ら気付くよう展開を工夫した。
- 授業の振り返りとともに、今後の生き方について考えたことを記録させた。

【留意事項】

- 自分自身を知ることは、今後の進路選択や今後の自己の生き方在り方に影響することに気付かせる。
- 自分自身のよい面だけに目を向けるのではなく、自分自身の弱い部分を見つめ直すことで、今後の生き方が大きく変わることに気付かせる。

【授業後の生徒の記録と考察】

【生徒の記録から・・・今後の生き方とその理由】	
今後の生き方	理由
自分自身のことを見つめ直す時間をもつ。	自分自身のことがよく分かっていない。自分を分析することで自分自身を成長させることにもつながると思ったから。

自分自身を振り返ったとき、恥じないように過ごしていきたい。	自分のダメだった過去を思い出すと心が痛い。その度に母の悲しい顔が浮かんでくる。人に自分の過去を言えずずっと心苦しかった。この学習の機会があり、自分の気持ちを言えたことで、心が少し楽になった。
自慢できるような人になりたい。	人がいるからこそ、自分の欠点に気付くことができ、反省出来ると思う。そういう面では感謝の気持ちがある。だからこそ、人を大切にし、自分も大人になり行動を改めたいと思う。
恥のない生き方をし、もっと自分と向き合って生きていく。	自分の不愉快な行動に対する後悔と謝罪、それでも一緒にいてくれた友だちに感謝です。過去の自分は何時思い出しても恥ずかしい自分が多いと分かった。
周りに流されずに、自分で考えて人と付き合い合っていく。	自分を守るために周りに合わせ過ぎだと思った。悪いこと、嫌なことを思い出したくなくて、自分の中で忘れようとしていた。でも忘れる事が出来ず、ずっと引っかかったままだったことが分かった。
少し考える。	もう少し深く将来のことや次のことを考えて行動できるようにしたい。少しでも考えることで、自分にブレーキをかけることが出来ると思うから。過去の嘘などは消せないけど、この先の嘘を減らしていけると思う。

【考察】

この学習は、小学校3年の児童が書いた詩を読んで、自分の嘘や偽りの言動を思い返し、自分自身を見つめ直すことを通じて、今後の生き方を考えることが目的である。

生徒自身が自分を分析し、思い出したくない過去やつらい経験を文字にするのは、勇気がある作業である。「些細なことで人間関係を壊してしまうのではないか」という不安をもち、自身の気持ちに正直になれず今まで過ごしてきたこと、「過去の自分の嫌な言動を忘れよう」としても、頭の中で消すことができず心が重かったなど、心に葛藤をもち続けている生徒は、今まで苦しんできた自分を許すきっかけとなり、心が軽くなったという生徒もいた。過去の出来事を繰り返さないための生き方を模索する生徒もいた。

精神的な負担を伴う内容であるが、優れている人にも欠点はある、人はよいところばかりではないことを知ることも、人として成長していく上では大切なことである。

自分自身について考えることは、今後の進路に大きく影響し、生き方なり方にも反映される。これまでの自分を振り返ることや、これまでの生き方を分析することで課題が発見でき、それが1年間の目標となる。

(2) 実践②

【単元名】 第1章 自分らしい人生をつくる

【『明日を拓く』から使用する教材】 第2節 他者を理解する「上手に自己表現しよう！」

【単元の指導時間】（8時間完了）本時3/8

- 1 生涯発達の視点……………1
- 2 青年期の課題……………1
- 3 目標をもって生きる……………2（本時1/2）
- 4 人生をつくる……………1
- 5 家族・家庭を見つめる……………1
- 6 これからの家庭生活と社会……………2

【題材】 「コミュニケーションスキルを身に付けよう」（ワークシートタイトル）

【題材の目標】

（教科の視点）社会的自立のためのコミュニケーションスキルを身に付ける方法を体験を通して学ぶ。

（道徳の視点）自分の考えや気持ちを確認し、相手の考えや気持ちを理解し、配慮した伝え方ができる。

【学習活動と道徳の内容項目】（中学校の分類による）

1 主として自分自身に関すること

（自主自律・誠実，責任）自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ(1-(3))。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

（人間愛・思いやり）温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し思いやりの心をもつ(2-(2))。

【指導展開】

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入	1 本時の目標と学習内容を知る。	人はそれぞれ「伝え方の癖」があり，現在の自分のコミュニケーションタイプと，今後どのようなコミュニケーションの仕方がより適切なかを体験を通して考えることを知らせる。	「上手に自己表現しよう」を中心とした展開
展開	1 アサーティブチェックをする。 2 コミュニケーションの4つのタイプを知る。 3 アサーティブチェックの資料にある各伝え方が，4つのタイプのどれに当たるかを考え発表する。 4 各自のコミュニケーションタイプを分析する。 5 アサーショントレーニングを体験する。 (1) 役割について説明を聞く。 (2) 練習問題を行う。聞き役として気付いたことを記入する。 (3) シーン1を体験し，各自の役割で気付いたことを記入する。 (4) シーン2・3を体験し，各自の役割で気付いたことを記入する。 6 アサーショントレーニング体験で感じたこと学んだことを書く。	○アサーティブチェックの当てはまるところの数字を○で囲ませる。 ○「アサーション」の意味を含めた「伝え方」のタイプを知らせる。 ○ワークシート1を考えさせながら順に発表させる。 ○ワークシート1に自分がチェックを入れたところを○で囲ませる。 ○自分のコミュニケーションタイプを書かせる。 ○3人一組のグループをつくり，自己表現役，相手役，観察役について説明する。 ○3回実施するため，各自それぞれの役を体験することを知らせる。 ○アサーショントレーニングの仕方を見せる。このとき，自己表現役は演劇部や活発な生徒を人選し，相手役を教員が行う。 ○シーン1を読みあげ，状況を理解させる。 ○シーン1を体験させる。1分30秒後に「残り30秒」と言う。 ○シーン1のそれぞれが担当した役の部分を記入させる。 ○シーン1と同様に，シーン2・3を行わせる。このとき，役割交代をするよう指示する。 ○アサーショントレーニング体験で感じたこと学んだことや考えたことなどを記入させる。	資料配付 ワークシート配付 ワークシート1 ワークシート2 ワークシート3 練習 ワークシート3 シーン1 ワークシート3 シーン2・3 ワークシート4
終結	1 本時のまとめ 2 応用編を考える。	○アサーティブな表現方法は，人間関係を円滑にするためには有効な方法であることを伝え，日頃の生活の中で生かすよう指導する。 ○応用編として，「絶対してはいけない」ことを人に伝えるための方法を考えさせる。 ○課題（宿題）としてもよい。	「青少年の問題行動」を応用編として使用

【展開の工夫】

- 教科の内容と『明日を拓く』教材を採り入れたワークシートを準備した（資料2）。
- アサーションの意味を理解させるために、アサーティブチェックを実施した。
- トレーニングを始める前に、あらかじめ具体的なシーンを利用して、手本を見せる。
- トレーニングを行うに当たって機械的に3人のグループを作り、自己表現役、相手役、観察役については、名簿番号順に実施した。
- 相手役には「残り30秒」の合図があるまで妥協せず会話を進めさせ、合図で妥協し解決するよう伝えた。
- それぞれの役割については、シーンごとに何をすればよいのかを説明した。
- 応用として、『明日を拓く』の教材にある「青少年の問題行動」の中の項目（「タバコを吸う」、「学校をさぼる」、「嫌がらせのメールをする」）について、友人の問題行動に対する自分の思いをアサーティブな言い方でどのように伝えるかを考えさせた。

【留意事項】

- 相手役の話の内容によって、会話が終了するようなことがないように、それぞれの役割を理解した言葉を選ぶよう指導する必要がある。

（例）「突然の欠席理由や都合の悪いお願いをする」ような場面で、その理由を「○○の葬儀」など、明らかにそこで終了するような会話とならないよう指導する。

【授業後の生徒の記録と考察】

【生徒の記録から・・・アサーショントレーニングを体験した感想】

- 何時も無意識にしている会話や態度も、少し考えてみるといろいろな見方があっておもしろいと思った。相手とのコミュニケーション力を上げる方法として、これからの社会生活に生かしていきたい。
- 人によって対処法が変わってくると思うので、上手に使い分けられると良いと思った。
- 相手を傷付けないためにはどのように言えばいいのか、言葉のチョイスが大変だった。
- 自分が感じたことを正直に伝えると気持ちがスッキリすると思った。言い方によっては失礼かなとか、怒るかなと思ったが、相手のために言っていることだから、友人として伝えることは伝えるべきだと分かった。
- 相手役の時にいろいろ言われたが、嫌な思いはしないし、逆に自分の悪い所に気付くことができた。
- 怒るときは、相手の気持ちを考え、解決策を考え「これからどうすべきか」を一緒に見付けてあげる優しさが必要だと思った。
- 3人グループでのシミュレーションは、2人の会話を客観的に見ることができたので、人に見られても嫌な気分にならないような気持ちのよい会話を心がけたい。
- 友だちにはアサーティブな表現が出来ているが、家族に対しては嫌みや怒りの対応しかできていないので、家族も大切な人達だから家族にも優しい表現をしないといけないと感じた。

【生徒の記録から・・・アサーショントレーニングの体験が生かされた場面】 9月上旬に実施

いつ頃	誰に対して	どのような場面で	どのように表現したか
夏休み	知らない高校生	東京ディズニーランドのショーの席で、誰かの荷物をどかして座ろうとしていた場面を見たとき	「その席は他の人が先に場所をとっておいて、どうしても抜けなければいけない用事があったと思うので、他の席に移動を御願います」と柔らかく伝えた。
外出中	お店の店員さん	不良品の交換をお願いしたとき	私が、「この商品は変だと思うので取り替えてくれますか」と言ったら、「そんなはずはない」と店員さんに言われた。引き下がれなかったので、「でも、もう一度確認してもらえますか？」と言ったら、確認してくれて、謝りながらお礼された。
夏休み	LINEの友達	一緒に遊ぶ約束をしたが、友達の指定した日時に予定が入っていた	「ごめんね、その日は予定が合わないから、○月○日はどうですか？」と断るだけではなくて次の予定が合う日を伝えた。

夏休み	近所の子ども達	遊んでいる感じが若干弱いものいじめになってきていたのを見ていたとき	「〇〇君だけがいつも鬼じゃなくて、みんなで交替でやろうね」と軽く言って帰った。
夏休み	母の友人の子ども（小学生）	いやがっている私の家の猫を逃がしてあげるため	猫も、子どもに抱っこされたり触られたりして、機嫌が悪くなってきたので「ネコさんそろそろお昼寝の時間だから、寝かせてあげようね」と伝えたところ、子どもはそれでも放そうとしなかったため、「ネコさんも眠たいって言うてるよ。〇〇君も眠くなるときあるよね。ネコさん離してあげよう」と優しく声をかけた。

【考察】

「アサーティブ」という言葉の意味を理解させるために、「特定非営利活動法人アサーティブジャパン」のウェブページ上のチェックリストを使用した。ただし、チェック項目によっては生徒が判断しにくいものもあるため、生徒向けに設問項目を変更した。「アサーティブ」という言葉の意味についてほぼ理解できたようである。

体験的な学習や実習は、生徒が楽しんで参加する授業となる。今回活用した「上手に自己表現しよう！」を教材とした授業展開では、相手の立場を尊重しつつ自分の意見を伝える練習をした。言い方を変えただけで、人に伝わる印象が変わってくることを、体験を通して学ぶことができた。この学習のよいと思われる所は、コミュニケーション能力の有無に関わらず、強制的に体験させられるところにある。日頃口数の少ない生徒でも、自分の言いたいことが言える体験は、大きな意味のある体験だったようである。また、機械的に三人のグループを作るので、日頃会話の少ないクラスメイトとも会話をする機会が生まれ、慣れない相手と会話をする練習にもなったようである。反面、性格的に弱く自分で判断したり、経験不足により言葉が出てこなくなってしまう生徒は、話術の上手な生徒に言い負かされてしまうこともあるが、どのような言い方が求められているかを知ることができたようだ。相手に対する思いやりや状況を判断した言葉の選択の必要性にも気付くことができた。

この経験が日常生活に生かされているかを、5か月後に調査した。生徒の回答には、家族や友人、部活の後輩などに対するアサーションの体験が多く記されており、意識的ではなく自然に、状況や人間関係に配慮した伝え方ができるようになってきたことが感じられる。見知らぬ他人に対しても「アサーティブ」な表現を活用したコミュニケーションができたと書いている生徒が複数いた。

また、『明日を拓く』の教材にある「青少年の問題行動」について、友人に対し「アサーティブな言い方で、してはいけないことをどのように伝えるか」を考えさせた。アサーティブな表現による言い方や話し方については、この学習の成果が出ていると言える。しかし、「青少年の問題行動」については、人の感情や価値観、その場の雰囲気や状況などが絡むことが多いため、言葉による表現をアサーティブにしたからといって、この問題が解決したことにはならないということや、「青少年の問題行動」について、「してはいけない行動である」という高い意識をもっていることも、生徒の回答を通して見る事ができた。

(3) 実践③

【単元名】 7章 住生活をつくる

【『明日を拓く』から使用する教材】 第1節 自己をみつめる「トリアージタッグ」

【単元の指導時間】（8時間完了）本時4/8

- 1 住生活について考える……………2
- 2 住生活の計画と選択……………5
 - (1) 安全で快適な住生活……………2（本時2/2）
 - (2) 健康な住生活……………2
 - (3) 誰もが住みやすい住まい……………1
- 3 持続可能な住生活を目指して……………1

【題材】 「災害対策」(ワークシートタイトル)

【題材の目標】

(教科の視点) 災害時における日頃の備えと、その心構えを身に付けることができる。

(道徳の視点) 大災害時などの困難な状況下における医療の難しさ、命の尊さ、生きることに対する意味など、「命」に対する価値観を考える。

【学習活動と道徳の内容項目】(中学校の分類による)

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

(生命尊重) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する(3-(1))。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

(立場の理解, 寛容, 謙虚) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつたことを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ(2-(5))。

【指導展開】

	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	参考
導入	1 本時の目標と学習内容を知る。 2 大きな災害や大きな事故現場での状況を想像する。	○大災害や大事故現場での命の優先順位を考える時間であることを知らせる。 ○大災害や大事故現場がどのような状況になっているのかを想像させ、数人に発表させる。	ワークシート1
展開	1 資料「現場の声」 (1) 資料を読む。 (2) 現場の状況を想像する。 (3) 現場に居合わせたときの自分自身の思いと行動を考える。 2 トリアージについて考える。 (1) トリアージとは、トリアージタグとは何かを知る。 (2) トリアージをどう思うかを考える。 (3) トリアージについてグループで話し合う。	○困難な状況下で行動している人の気持ちと、その思いについて考えさせ、発表させる。 ○現場に居合わせたときの自分自身の思いと、そのときの行動を考えさせ、発表させる。 ○「トリアージの意味」に関する資料を配付し説明する。 ○トリアージについて各自で考えさせる。 ○4～5人のグループをつくり、司会者・書記・発表者を決め、トリアージについて意見を交換し、発表させる。 ○疑問に感じたことや理解できないこと等、話し合いの中で出た事柄もまとめておき、班の意見として発表するよう指示する。	ワークシート2(1) ワークシート2(2) 資料を配付 ワークシート3(1) ワークシート3(2)
終結	1 本時学習の感想や意見を書く。 2 本時学習のまとめ	○過去の大災害や、大地震が予測されている現状を踏まえ、授業を振り返り感じたことや考えたこと、人の意見から学んだことなどを書かせる。 ○トリアージについては、緊急・救急医療現場ではマニュアルに沿って行われているが、「命」の価値については人それぞれがいろいろな立場で思い悩み対処していることを知らせる。また自分自身に起こりうることとして、今後の生活を大切にすることも伝える。	ワークシート4

【展開の工夫】

- 教科の内容と『明日を拓く』教材を採り入れたワークシートを準備した（資料3）。
- 災害現場の状況等をイメージさせるために、テレビドラマなどの例を挙げた。
- グループ討議において、司会者、書記、発表者の意図的な役割分担と、仕事内容の確認をした。
- グループ協議中（協議の妨げとなることも考えたが）、災害現場の状況や、医師、看護師、レスキュー隊、救急車等の作業状況などについて話をしながら机間指導を行った。
- グループ討議中、協議が中途半端にならないよう進行を補佐するために時間を知らせた。
- 発表直前に各班でリハーサルをするよう指示した。

【留意事項】

- 生徒の経験不足や、新聞・報道記事を読む機会が少ないこともあり、事件現場に関するイメージが浮かばないため、イメージできるような数分のDVDなどがあるとよい。トリアージタグが具体的に使用された例
- や、今後予想される使用場面、危機管理に対する行政の動きについて、情報を準備した方がよい。



【授業後の生徒の記録と考察】

【グループワークの様子】

【生徒の記録から・・・「トリアージ」の必要性と授業後の感想】

「トリアージ」の必要性について

【必要である】

- 大きな災害が起こったときに、平等なんてことは言ってもらえないと思うからです。むやみに手を付けても助かる人はごく一部になってしまうと思うので、こういう区別はとても大切。
- 軽傷なのであれば後でもいいけど、重傷の人は、一刻を争うので、やはり一目で見て分かるようにしているのは大事だと思う。時間が大切なので、作業する人がタグの色を見て判断できるので、治療効率も上がり良いと思う。

【差別である】

- 混乱した現場で人が正常な判断を出せないと思うし、トリアージされた人の遺族が責め立てるのを想像ができるから。
- 勝手に死亡組にされたらかわいそうだから。

【その他】

- 客観的に考えると、助かる人をより多く助けた方がいいと思うけど、自分の身近な人が「黒タグ」を付けられ、まだ息があるのに後回しにされるというのは納得できない。
- 優先順位を決める事は確かに効率のいい治療に繋がるかもしれないが、その見極めを誤ってしまったら、助かる命も助からなくなってしまうので、もう少し考える必要があると思う。

【生徒の記録から・・・「トリアージ」の必要性と授業後の感想】

授業の感想

- 一人でも多くの人を助けるためには、やっぱり一人でも多くの命を救う側の人は必要だと感じる。医師や看護師が少ないのは変わらない。その時に、一般の人に出来ることは何なのかを考える。そういった事態はなかなか起こらないけど、学校などの教育でもっと教えるべきだと考える。私は看護師を目指しているが不安でいっぱいです。しかし、一人でも多くの命を救いたいという志をもって、立派な看護師を目指したい。

○自分の知り合いや家族に黒のトリアージタグが貼られてしまったらすごく嫌だし、悲しいし、お医者さんや看護師さんに助けを求めてしまうと思います。でも、差別をしているわけではないことを頭に入れておかなければならないと思いました。多くの命を助けるためには必要なことで、助けに行ける人数も限られるわけだから、少しでも効率を良くするためにはしかたがない。命を簡単にあきらめたいわけじゃないことを、分かってあげることが大切だと思った。

○もし大災害が発生して自分が被害に遭い、トリアージによって黄色タグを貼られてそのせいで、怪我が悪化して死んでしまったら、自分の犠牲で誰かが助かったとしても、やりきれないと思う。当人が死を受け入れられたとしても、家族や友人がその死の原因を知ったとき受け入れられるのか分からない。最もこんな事が起きないのが一番いい。

【考察】

「トリアージ」という言葉の意味は何となく理解できたようであるが、日常的ではないことから、いつ、どのような場面で活用されるのかなどを説明する必要がある。また、災害における危機的意識が不足しているように感じた。「トリアージ」という考え方は受け入れなくてはならないが、生徒の気持ちの中に、「命」に関わるだけに葛藤が見え隠れする。自分自身が事故や災害に遭遇した場合に想定できることを、多角的な視点から考え、行動力へとつなげるためには、常日頃からの危機的意識を高くもたせ、日々の生活を主体的に生きていくための指導を心がけることが必要であると感じた。

「トリアージタグ」は、「モラルジレンマ」を題材とした読み物学習である。何を選ぶか、どちらを選ぶかの心の葛藤には、いろいろな人や立場の異なる人の考え方や意見を聞いたり調べたりして、自分自身なりの結論を導くことが必要と思われる。狭い経験しかないために、情報量の少ない内容をいかに読み解き、それを自分自身の在り方生き方にどうつなげるかが難しかった。特に読み物学習では、紹介される文章に感情移入してしまい、自身の判断が十分にできない生徒が多いように感じた。『明日を拓く』に記載された資料だけでは十分ではないため、授業に当たって指導する側の準備として、多角的な情報収集と生徒への提示方法、学習展開の工夫も検討する必要がある。

6 成果と課題

(1) 実施の成果

高校生活は、高校卒業後に自立し責任ある生活を送るため（社会人になるため）の準備段階である。教科の知識や技術の定着を図ることと並行して、道徳性を育むことを意識した授業は、実践例の生徒の意見や感想にも見られるように、生徒自身を成長させることにつながっており、その意義は大きいと思われる。

道徳的内容を含む学習は、コミュニケーション能力の低い生徒、自己肯定感の低い生徒にとって、自分自身で考える体験、自身の意見を述べる体験、他人の意見を聞いて学ぶ体験、考えをまとめ整理し記述する体験などができる貴重な体験的学習の場である。また、言語活動を取り入れたグループ学習は、コミュニケーション能力の向上にもつなげることができる。

主体的に思考、判断し、他の人の意見を尊重しつつ、自分の考えを自信をもって述べることは、今後の社会生活に必要とされる能力である。人に頼ることなく、自分自身の意見や考えを行動に移すことができるようになれば更によいと思われるが、この点に関しては、生徒自身の勇気と挑戦する力が必要となる。

家庭科の授業の中で取り上げた『明日を拓く』の教材は、今回紹介した三つの資料を含め、九種類ある。視点を変えて活用した教材もあるが、どの授業も、生徒にとっては、自身で思考したり仲間と論じ合ったりする中で、教科の内容とともに、在り方生き方を真摯に考える意義ある学習であったと思われる。

(2) 実施の課題

教科の学習の中で道徳教育を実践して3年となるが、実際に授業を展開して初めて課題が見えて

くる。平成25年度の研究発表でも報告したが、授業を実施するに当たり、生徒の実態や動きなどに合わせていろいろな資料を準備する必要があった。また、周到な準備をしても、授業を展開していくと、教師側の意図とは異なる視点からの意見が次々出され、常に授業展開を修正する必要があった。このように、道徳教育は実施するごとに新たな問いや視点が生まれるため、それらに対する検討がそのつど必要となる。これは負担の大きいことだが、よりよい授業展開を図るための工夫は教える側にとっても勉強になるし、生徒にとっても、自らの発想が、在り方生き方を考える授業に生かされる貴重な機会となっている。

授業終了時点では、ねらいとした道徳の価値に対し高い意識をもった意見が記述されるが、時間の経過とともにその意識が薄れていくこともあり、その場限りの指導となってしまう可能性がある。継続的に道徳の価値を追求できるとよいと思われるが、時間的制約もあり、なかなか難しい。

『明日を拓く』の教材は、1時間の授業で完結するものもあるが、グループ討議などを入れると時間が不足し、話し合いが中途半端で終わってしまうこともある。十分な討論とまとめの時間をもつために、複数時間の確保が必要となる教材もある。

読み物学習では、『明日を拓く』で準備されている資料だけでは不十分な場合があることが分かった。限られた資料では、その内容に感情移入してしまい論点がずれることも多いので、異なる角度から同じ問題を取り上げた資料を複数用意するなどの工夫が望まれる。

7 おわりに

生徒は、少ない経験や情報量、表面的な部分だけで物事を考え判断する。道徳的な知識はあっても行動できない生徒や道徳的な知識が十分にはない生徒も多く、学校教育全体の中で適切な場面、適切な内容を提示し導いていく必要がある。道徳性を養うためには、道徳的な知識について、生徒が理解できる言葉で、具体的に説明することも大切である。しかし、道徳的判断に基づいた言動に結び付けていくためには、教える道徳だけでなく、思考させる道徳、判断させる道徳、行動するための道徳などを経験させることも必要と考える。一方的な指導だけでは道徳性を養うことは難しい。自らの経験や人の意見、実験・実習などを通して、人との関わりの中で体験的に学ぶことで育つものもある。

教科「家庭」に関する各科目には、道徳的な視点を採り入れることができる学習内容が多い。「家庭基礎」の学習内容の中に『明日を拓く』を活用した授業の試みは、体験的・思考的学習や、言語活動による学習が可能であり、生徒は、自分自身を知ることや、多様なものの見方や考え方を学ぶきっかけとなった。これにより、自身の考えを更に深めるための情報収集をしたり、実践に移したりすることができるようになった生徒もいる。

『明日を拓く』の資料やワークシートは、今回の実践例でも示したように、学校の実態・扱う教科・単元に合わせて自由に編集し直して使用することができる。道徳的視点を踏まえた単元構想・授業展開を工夫することで、部分的使用でも効果的に教科の中で活用することができるため、今後有効に活用し、生徒の道徳性・社会性の向上に努めていきたい。

参考文献

- 愛知県教育委員会『明日を拓く 一人間としての在り方生き方を求めて－』平成25年3月

家庭基礎No.1 自分らしく生きるには（自分調べ） 教科書 p8～11

- 目標 ○「家庭基礎」での学習内容と評価方法について知り、これからの学習姿勢について考える。
 ○日頃の生活を振り返り、この1年間で身に付けるための目標を立てる。
 ○人は完成された人間ではないこと、周囲に受け入れられ支えられている存在であることに気付かせ、他者への感謝と思いやりの心を育む。

1 中学校や小学校の家庭科の学習について記憶にあることを書きましょう。

<小学校>

講義で学んだ内容

<中学校>

講義で学んだ内容

調理実習

調理実習

製作物

製作物

2 家でのあなたの係は何ですか？

（何もない場合はなぜかな？理由や原因を考えて書こう）……→→

係：

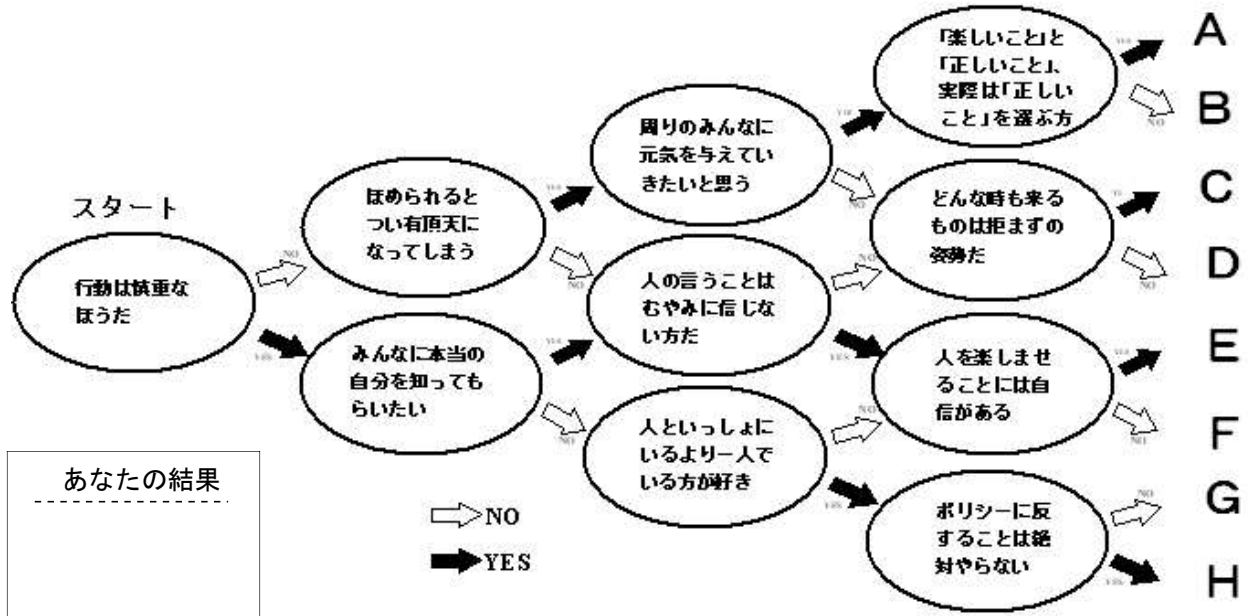
いつから？：

どんなこと？理由

3 先生からの「家庭基礎」の学習目的・内容の説明で必要があればメモをとりましょう。

4 「家庭基礎」の評価方法の説明で必要と感じたことがあればメモをとりましょう。

5 人にはいろいろな側面があります。自分がどのようなタイプなのか下のチャートでチェックしてみましよう（東京書籍「家庭基礎」準拠学習ノート（2007年版）より）。



A	熱血社交派	行動的で根っからの交流好き。人と接することが苦にならないタイプ。オープンに本音話す。
B	素直な人好き派	みんなとワイワイ楽しむのが好き。誰とでも気さくに話ができるタイプ。隠し立てなく正直に話をする。
C	人情受け止め派	働きかけてくる人をおおらかに受け止めるタイプ。打ち解けたら本音で話をし、人に対して義理堅い。
D	人見知りの愛着派	狭く深い付き合い方で、気心の知れた人との交流が心地よい。聞かれれば素直に本音話す。
E	気遣い盛り上げ派	上手く人を乗せて盛り上げるタイプ。できれば他人のネタで楽しみたい。建前を話している方が気楽。
F	そつなく協調派	調和を大切にするタイプで話好き。人には興味があるが、自分の気持ちはあまり表さない。
G	思いやりアクション派	さりげないフォローが得意。接してくる人を暖かく受け止めるが、本音を語るまでには時間がかかる。
H	ロマンス型受け入れ派	あっさりとした人付き合いをするタイプ。自分の考えは確固として持っているが、あまり表現しない。

6 自分自身を分析（主に性格・行動力・考え方など）してみよう。

自分の好きな部分	自分の嫌いな部分
自分も他人も知っている部分	自分は知っているが他人は知らない部分

(4) 「嘘、偽り、嫌がらせ（自分の悪い面）などの行動」を思い出すことで、嫌（不愉快）だったと感じたら、その気持ちを感じたままに書いてください

(5) 自分はどのようなときに「嘘、偽り、嫌がらせ（自分の悪い面）などの行動」をとると思いますか。

(6) あなたは、「嘘、偽り、嫌がらせ（自分の悪い面）などの行動」をとってしまった相手に、今どのような気持ちを抱いていますか。

8 問5～問7を通して自分自身を分析しましたが、あなたは、何を感じ考えましたか。自由に書きましょう。また、あなたが今後、どのような生き方をしたいと思いましたか。その決意を1文で書いておきましょう。

これからの生き方：

自己評価をしてみよう	A：できた（思う）	B：普通（分からない）	C：できない（思わない）	学習後の感想
1. 興味関心をもって学習に取り組むことができた	A	B	C	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>
2. 学習目標が達成できた	A	B	C	
3. プリントの記入が時間内にでき、提出日に出せる	A	B	C	
4. 今後の生活に生かすことができると思うか	A	B	C	
5. 自己分析ができた	A	B	C	

家庭基礎 No.3 コミュニケーションスキルを身に付けよう（上手に自己表現しよう・青少年の問題行動） 教科書 p14

目標 ○ 社会的自立のためのコミュニケーションスキルを身に付ける方法を体験を通して身に付ける。
○ 自分の考えや気持ちを確認し、相手の考えや気持ちを理解し、配慮した伝え方ができる。

1 アサーティブチェックの設問はどのタイプになるだろう？空欄に番号を入れよう。あなたが選んだ番号を○で囲もう。

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
おこりキャラ									
ひるみキャラ									
いやみキャラ									
アサーティブ									

2 あなたは総合的にみてどのタイプでしたか？

3 アサーショントレーニングをしてみよう。

(練習) あなたは友人と2人でバスケット部のマネージャーをしています。公式戦の朝、あなたは都合で試合会場に行けなくなりました。友人と分担した仕事も果たすことができません。あなたは友人にどのように謝りますか。

自己表現役：謝る

相手役：許せないことを訴える

聞き役：謝る人の謝り方を中心に観察

自分の役（聞き役）係 気付いたことを記入する	
---------------------------	--

シーン1 授業後に友達から、「授業で使う教材を買いに行くのでつきあって欲しい」と言われました。授業後は自分にとっては大切な部活があるので、買い物につきあう気にはなれません。友達にどのように断りますか。

役割 自己表現役：名簿① 相手役：名簿② 聞き役：名簿③

自己表現役：断る **相手役**：つきあって欲しいことを訴える **聞き役**：断る人の断り方を中心に観察

自己表現	難しいと感じたこと	
現役	自己表現したときの評価 ○(できた)、△(普通)、×(できなかつた) を記入する	() 相手の気持ちを理解しようとした。 () 明確で、誠意のある言葉遣いができた。 () ジェスチャーを入れながら感情豊かに表現できた。
	自分の役（ ）係 気付いたことを記入する	

シーン2 買って間もないCDを友達に貸してあげました。ところがなかなか返してくれません。二回ほど催促しましたがいまだに持ってきてくれません。友達にどうやって返してもらいますか。

役割 自己表現役：名簿② 相手役：名簿③ 聞き役：名簿①

自己表現役：返して欲しいことを伝える **相手役**：返せない理由を言う

聞き役：「返して欲しい」ことについての伝え方を中心に観察

自己	難しいと感じたこと	
表現	自己表現したときの評価	() 相手の気持ちを理解しようとした。
役割	○(できた)、△(普通)、×(できなかった) を記入する	() 明確で、誠意のある言葉遣いができた。 () ジェスチャーを入れながら感情豊かに表現できた。
自分の役 () 係 気付いたことを記入する		

シーン3 駅の改札口の前で友達と待ち合わせをしていますが、約束の時間から20分たっても来ません。友達は遅刻の常習犯。乗車予定の時間ぎりぎりになって現れた友達に、どのように注意しますか。

役割 自己表現役：名簿③ 相手役：名簿① 聞き役：名簿②

自己表現役：注意する 相手役：遅刻した理由を訴える 聞き役：注意の仕方を中心に観察する

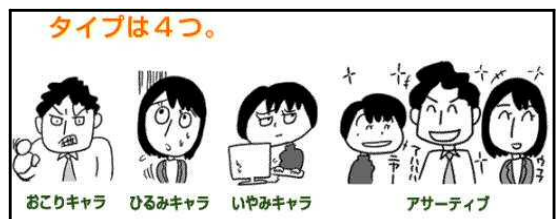
自己	難しいと感じたこと	
表現	自己表現したときの評価	() 相手の気持ちを理解しようとした。
役割	○(できた)、△(普通)、×(できなかった) を記入する	() 明確で、誠意のある言葉遣いができた。 () ジェスチャーを入れながら感情豊かに表現できた。
自分の役 () 係 気付いたことを記入する		

4 アサーショントレーニング体験で、感じたこと、学んだこと、考えたことを自由に書こう。

<資料>コミュニケーションパターン

私たちは様々な形で相手とコミュニケーションをとっていますが、「伝え方のくせ」によって、言っていることが相手に伝わらない場合もたくさんあります。伝え型のパターンは下図のように4つあるとされます。下図の「アサーティブ」とは、訳語は、「自己主張すること」。しかし、アサーティブであることは、自分の意見を押し通すことではありません。自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に表現することを意味します。

現在の自分のコミュニケーションパターンは、どんなタイプなのでしょう。質問の答え方によって、自分のコミュニケーションパターン(自分のコミュニケーションのくせ)が見えてくるかもしれません。



(出典：特定非営利活動法人アサーティブジャパンHP <http://www.assertive.org/>)

アサーティブチェックをしてみよう。設問を読んで、該当する番号に○を付けよう。
(前掲 アサーティブジャパンHP セルフチェック「自分のタイプを知ろう」を一部改変)

設問1. レストランで頼んでいた料理がなかなか出てこない。そんなときあなたは…。

1. 不安になりながらも、黙って待つ。
2. 「いつまで待たせるんですか！」と感情的に抗議する。
3. 「20分くらい待っているのですが、あとどれくらいかかりますか？」と冷静にきいた上で、時間がかりそうだったらキャンセルを申し出て店を出る。
4. イライラして待った結果、お店の悪口をインターネット上に書き込む。

設問2. 友人からお勧めのマンガを借りたが、全然おもしろくなかった。「マンガどうだった？」と聞かれた。そのときあなたは…。

1. 「超最悪だった！あれのどこがいいわけ？」とふてくされてマンガの悪口を連発。
2. 「面白かったね」とうそをつく。
3. 「まあ人それぞれだよ」とぼそっとつぶやき、しばらく不機嫌。
4. 「ちょっと言いづらいけど」と正直にマンガの感想を言う。

設問3. 中学時代の先輩から電話がかかってきたと思ったら、部活への勧誘だった。自分は決めた部活があり、満足していて先輩の部活に入るつもりはない。そのときあなたは…。

1. 相手との関係を悪くしたくないので、しぶしぶ部活に入る。
2. 「興味ないしムリです」と、はっきりきっぱり断る。
3. 「お気持ちはありがたいのですが、今は〇〇部への入部を考えています」と断る。
4. 「入ってもいいんですけど、友だちがどう言うか…」と、友だちをだしにして断る。

設問4. 疲れている時に家族から文句を言われました。思わずカチーンときたあなたは…。

1. 10倍にして言い返す。
2. ここで波風を立てたら後が大変だから、「ごめんね」と言って先に謝る。
3. 無視してしばらく口をきかないでいる。
4. 「今疲れているから、また別の機会に話してもいい？」とその場を離れる。

設問5. 後輩が何度もミスをしている。これまでも「何がわからないのかな」と優しく聞いていたけれど、これで5回目。堪忍袋の緒が切れそうになったあなたは…。

1. こいつはもうだめだとあきらめて、自分の運の悪さを嘆く。
2. 「何度言ったらわかるんだ」と、思わず怒鳴ってしまう。
3. 「このままではまずいよ」と伝えて、具体的な変更点を提案する。
4. これまでのミスの一つひとつ挙げて、「君にはがっかりだよ」と、冷静に説教し、相手がどんなに迷惑をかけているかを認めさせる。

設問6. 実験のレポートをまとめたところ、先生が「この間のレポート、すごくよかったよ」と褒めてくれました。意外な褒め言葉にあなたは…。

1. 「いえいえ、自分なんて…。そんなことありません…」とモジモジする。
2. 「ありがとうございます。そんな風に言われると嬉しいです」と感謝する。
3. 「そんなこと言っても何も出ませんよ」と皮肉で返す。
4. 「別によくはないですよ」と言って、相手の言葉を否定する。

設問7. 後輩に部室の片付けを頼んで帰宅したけれど、翌日来てみたら何もできていない。がっかりしたあなたは…。

1. 猛烈に「怒りのオーラ」をかもし出して、相手に「悪かった」と思わせる。
2. 「なんで？どうして？すぐにやって！」と、即刻やらせる。
3. 正直にがっかりしたことを伝え、相手の理由も聞いた上で「やってもらいたい」と伝える。
4. 「こんな人に頼んだ自分が間違いだった」と反省して、自分でやる。

設問8. 忙しい先輩に、急いで資料に目を通してもらいたいと思っている。そのときあなたは…。

1. 「お忙しいところ申し訳ありませんが、〇〇をお願いします」と勇気をもって頼む。
2. 忙しいので自分の依頼をひっこめる。
3. 「今、忙しいですね…」と言いつつも、なんとなくその場をうろうろして相手に「どうしたの？」と声をかけてもらう。
4. 相手が忙しいかどうかについては、全く気にならない。

設問9. 自分がリーダーシップをとって一生懸命企画したイベントが、うまくいかなかった。そのときあなたは…。

1. 自分がリーダーとして失格だったんだと責めて、激しく落ち込む。
2. 他のメンバーがやってくれなかったせいだと、周りを叱り飛ばす。
3. 精一杯やった事実を認め、今後自分にできることは何かを考える。
4. 自分のせいではなく「〇〇さんのせいです」と誰かに責任転嫁して、周りに愚痴る。

コミュニケーションスキルを身に付けよう (応用編)

次のような場面を見かけたとき、「絶対してはいけない」ということを、あなたならどのように伝えますか。大変言いにくく、勇気の必要な事だと思いますが、考えてみましょう。

- 1 「タバコを吸う」場面を見かけたとき

- 2 「学校をさぼろう」としている人を見かけたとき

- 3 「嫌がらせのメール」を送信しようという人を見かけたとき

自己評価をしてみよう

A : できた (思う) B : 普通 (分からない) C : できない (思わない)

- | | | | |
|---------------------------|---|---|---|
| 1. 興味関心をもって学習に取り組むことができた | A | B | C |
| 2. 学習目標が達成できた | A | B | C |
| 3. プリントの記入が時間内にでき、提出日に出せる | A | B | C |
| 4. 今後の生活に生かすことができると思うか | A | B | C |
| 5. アサーティブな表現方法が分かった | A | B | C |

学習後の感想

家庭基礎 第7章-No.4 災害対策（トリアージタッグ）教科書 p 148・149

目標 ○災害時における日頃の備えと、その心構えを身に付けることができる。
○大災害時などの困難な状況下における医療の難しさ、命の尊さ、生きることに対する意味など、「命」に対する価値観を考える。

組 番 氏名

1 大きな災害や大きな事故現場での状況について、考えられることを箇条書きにしてみよう。

2 「現場からの声」（『明日を拓く』p43・44）を読んで考えてみよう。

(1) 困難な状況下においても、できる限りのことをしようと立ち向かう人は、どのような思いで行動していると思いますか。

(2) あなたが、偶然その現場を通りかかり、その様子を間近に見たとき、何を感じ何を考え、どのような行動をしていると思いますか。

3 「負傷者の治療に優先順位を付ける」トリアージの考え方について、どのように思いますか。

(1) あなたの気持ちに近い意見を○で囲み、理由を書きましょう。

必要だと思う

理由

差別である

その他

(2) グループで話し合った意見や疑問点などをまとめよう。

4 阪神淡路大震災や東日本大震災の過去の状況、東海地方を襲う大地震が予測されている中で、この授業を振り返って感じたことや考えたこと、人の意見から学んだことなどを書いてみよう。（紙面の不足する人は裏面を使用する）

※トリアージとは

大地震が来てまもなくすると、負傷した人々が、次々と治療を求めて病院、診療所、救護所に押し寄せてきます。しかし、これらの施設では停電で医療機器が使えなかったり、スタッフが不足したり、施設そのものが損壊していたりして、治療を求める人々に十分には対応できない状況が生じます。

災害時には、多数の負傷者に対して提供できる医療が少ないという条件のもとで、一人でも多くの人を救命するために、受傷の程度を手早く判断し、程度に応じた治療の場所へ搬送・誘導する作業が不可欠となります。この作業を「トリアージ」といいます。

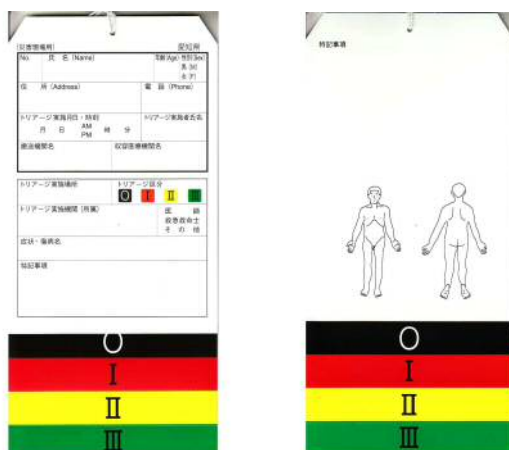
つまり、「トリアージ」とは、人材・資材の制約の著しい災害医療において、最善の救急効果をあげるために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分類し、治療の優先度を決定することです。ここで押さえておきたいのは、「トリアージ」とは、優先度決定であって、重症度や緊急度決定ではないということです。すなわち、人材・資材が豊富にある平時では、最大限の労力をもって救急処置される（結果、救命して社会復帰する）傷病者も、人材・資材が相対的に不足する状態では、全く処置されない（その結果、死に至る）場合があるということです。搬送や救命処置の優先順位を「Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ」と決め、「Ⅳ」は搬送救命処置が行われないことがあります。

※トリアージタグとは

トリアージでは、受傷の目印のため、「トリアージタグ」という札を体につける約束事になっています。トリアージの区分として4段階に分かれており、4つの色で分類されます。

この分類は、呼吸の状態、脈をとれるか、意識はどうか、などから判断します。なお、その現場の救命機材、人員の能力、搬送能力、搬送医療機関の能力、症状者の数などで、この分類は相対的に変化します。

優先度	分類	色別	区分
第1順位	緊急（最優先）	赤	Ⅰ
第2順位	準緊急（待機的）	黄	Ⅱ
第3順位	保留（軽症）	緑	Ⅲ
第4順位	死亡群、治療・搬送待機群	黒	Ⅳ



『明日を拓く』活用事例 1

— 郷土の偉人 杉原千畝 —

愛知県立豊田西高等学校 教諭 久田 恒夫

1 はじめに

現行学習指導要領では、道德教育は公民科をはじめとする各教科や特別活動、総合的学習の時間など学校の教育活動全体を通じて行い、道德的実践力を高めるとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことを目指している。その背景には、社会全体のモラルの低下、すなわち個人の利害損得を優先させる、他者へ責任転嫁する、物質的な価値や快楽が優先されるといった風潮がある。『中学校学習指導要領解説道德編』に、「生徒の豊かな心の成長にも影を落とし、生徒が本来もっている人間としてよりよく生きようとする力をも弱めさせかねない状況にある」（注）と指摘されている現状は重大な問題である。選挙権年齢が18歳に引き下げられた現在、生徒たちが社会の一員としての自覚をもち、よりよい社会の実現を目指して行動するためには道德的実践力を身に付けなければならない。そして、その実現のためには道德教育の充実が必要なのである。

「道德の時間」が設定されていない高等学校では、意図的に道德教育を行う場面をつくる必要がある。そこで、総合的な学習の時間を活用して、愛知県教育委員会が平成25年3月に発行した道德教育指導参考資料『明日を拓く—人間としての在り方生き方を求めて—』の教材「郷土の偉人 杉原千畝」を活用し、道德教育を実践した。

（注） 第1章総説 第2節道德教育の基本的な在り方 3 生徒を取り巻く社会の変化と道德教育
(1) 社会全体のモラルの低下への対処

2 生徒の実態

本校は、昭和15年に創立された愛知県挙母中学校以来、70年を超える伝統をもつ普通科進学校である。校訓の「躬行実践（自ら求めて、自ら学ぶ）」の他に、教育目標「人間として立派であれ」を掲げ、日本全体、さらには世界で活躍できる人材の育成を目指している。ほぼ全員の生徒が大学進学を目指す中で、平成25年度からはスーパーサイエンスハイスクールに指定され、豊田市や地元企業、名古屋大学をはじめとする大学との連携によるスーパーサイエンス事業を数多く実施している。このように、生徒の学ぶ意欲を喚起し、さまざまな分野や未知の学習内容に果敢に挑戦する姿勢を育てながら、生徒が夢に向かって自信をもって躍進できる体制が整備されている。

また、部活動も大変盛んである。今年度の高校総体予選では、陸上部の東海大会出場をはじめ、サッカー、弓道、女子バスケット、新体操など多くの部が県大会に出場しており、十分な練習場所が確保できない中で、短い時間で集中して練習に取り組んで文武両道を実践している。

このように、能力、意欲ともに高い生徒が多くを占めているからこそ、社会全体のことを考え、社会をよりよくしていこうとする真摯な努力を重ねる姿勢が求められる。そうしたことを踏まえて、道德教育の全体計画では、自他を尊重する教育の徹底、望ましい人生観の確立などを具体的目標として挙げている。

3 実践のねらい

総合的な学習の時間に、『明日を拓く』の教材「郷土の偉人 杉原千畝」を実施し、外交官でありながら、外務省の訓令に反してユダヤ人を救うための「命のビザ」を発給し続けた杉原千畝の生き方を通して、信念を貫くことの大切さや生命を守ることの大切さについて考えさせる。

4 実践の方法

(1) 対象と実施時期

3年2組(43名)、平成27年7月

(2) 教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間にて実施

(3) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』から使用する教材

第3節 社会と関わる「郷土の偉人 杉原千畝」

教材「郷土の偉人 杉原千畝」は、第二次世界大戦中、ナチスドイツから迫害を受けたユダヤ人を救うために外務省の訓令に反して大量のビザを発給し、およそ六千人のユダヤ人の命を救ったにもかかわらず、戦後は不遇な時代を過ごさなくてはならなかった杉原千畝の生き方から、人間の命の重みや信念を貫く勇氣について考えさせるものである。

この教材は、当時の世界やユダヤ人がおかれた状況、杉原千畝がとった行動の具体的内容、戦後の日本で受けた扱いなど幅広い資料から、杉原千畝の行動がいかにより勇氣を必要としたのか、さらに、そこまでして命を救った行為の尊さについて考えさせることができる効果的な教材である。

(4) 展開の工夫

今回は、杉原千畝の業績が分かる読み物資料を提示した上で、調べ学習を実施して、杉原千畝の業績についてより深く考えることができるようにした。また、調べ学習を短時間で効率よく実施するために、グループごとに調べるテーマを割り当て、調べた成果を新たなグループにもち寄って報告させるという形態をとった。こうすることで、全ての生徒が責任をもって調べ学習を行い、話し合いに参加しなければならない状況をつくることもできた。調べ学習の成果を話し合う際には、司会者を「誕生日が一番早い人」と指定し、日頃のクラス内での人間関係とは無関係に進行役を任せた。これも、日頃の人間関係とは無関係の役割を割り当てることによって、異なる立場を経験させるための工夫である。今回の道徳教育の実践は、教材である杉原千畝の生き方から学ぶだけでなく、同時に、学習形態からも体験的に学ぶことができるようになっている。

また、ワークシートを工夫して、調べ学習を行う前に杉原千畝について感じたことと、調べ学習の成果を踏まえて深く考えた後の感想を両方記録することによって、自分の考えが深まったことを実感できるようにした。

5 学習活動と道徳の内容項目（中学校の分類による）との関連

この実践の内容は、中学校学習指導要領「第3章 道徳」に示された道徳教育の内容のうち、以下の部分に該当する。

- 1 主として自分自身に関すること。
- (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
- (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
- 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。
- (1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

6 本時の展開

1 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (5分)	本時のねらいを知る。	○資料①の内容を説明し、本時のねらいを示す。	
展開 (40分)	<p>1 資料『杉原千畝と「命のビザ」』（出典：「知っていましたか近代日本のこんな歴史」国立公文書館アジア歴史資料センター）を読む。</p> <p>2 作業① 杉原千畝の業績について最初の感想を記録する。</p> <p>3 杉原千畝が、戦後不遇な時代を過ごしたことを知る。</p> <p>4 作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについての感想を記録させる。</p> <p>5 グループワーク① 6～7人のグループに分かれてタブレット端末を用いた調べ学習を行う。 調べて分かったことは、ワークシートに記録して次回の話し合いの材料を用意する。</p>	<p>○資料を読ませ、分からない言葉があれば質問するように指示する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○資料②の内容を説明する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○3グループは「当時のユダヤ人がおかれた状況」、3グループは「外務省が置かれた立場」1グループは「外交官の仕事とは」というテーマを割り当てる。</p> <p>○次回は、グループを再編成して話し合いを行うことを予告して、充実した話し合いのためには、しっかりと調べる必要があることを伝える。</p>	
まとめ (5分)	ワークシートへの記入漏れがないか確認する。	○ワークシートを回収する。	

2 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (3分)	新しいグループに分かれて着席する。	○分担して調べた内容が共有されるように、前回の各グループから一人ずつを入れたグループに再編成する。 ○前回記入したワークシートを返却する。	
展開 (30分)	グループワーク② 前回調べた内容を互いに報告して情報を共有し、杉原千畝を取り巻く状況を明らかにする。	○司会者を「グループの中で誕生日が一番早い人」と指定して、日頃の人間関係とは無関係の役割を割り振る。 ○前回の調べ学習では、グループごとに異なるテーマについて調べており、今回のグループのメンバーは、それぞれが異なる情報を持っているはずなので、互いが調べた内容を報告してまとめるように指示する。	
まとめ (17分)	作業③ 本日の話し合いを踏まえて、杉原千畝の生き方から学んだこと、考えたことをまとめる。	○机間指導をして、生徒の記入状況を確認する。 ○調べた内容にこだわり、杉原千畝の生き方から離れてしまわないように声をかける。	

【資料①】

皆さんは、ホロコーストという言葉を知っていますか。ホロコーストとは、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツが多数のユダヤ人を虐殺したことを指します。アウシュビッツという地名はどうでしょうか。アウシュビッツは、多数のユダヤ人が収容され、虐殺された強制収容所があった所です。皆さんの中には「アンネの日記」を読んだり、歴史の授業で学んだりして、ユダヤ人の虐殺についてある程度知っている人も多いと思います。

それでは、第二次世界大戦中、何人のユダヤ人が虐殺されたか知っていますか。ホロコーストで虐殺されたユダヤ人は、何と約600万人とされています。愛知県の人口は約745万人です。このような恐ろしい狂気が吹き荒れる中、敢然とユダヤ人の命を救うことに身を捧げた一人の日本人がいました。今日は、その日本人の軌跡をたどってみましょう。

【資料②】

実は、杉原千畝さんは先生の高校の大先輩です。しかし、先生が高校に通っていた昭和55年（1980年）頃、杉原千畝さんが自分の高校に通っていたことは全く知りませんでした。学校で話題になることも全くありませんでした。

それはなぜかという、こういう事情があります。

終戦後、杉原さんと家族は収容所に入れられました。収容所での生活と移動を繰り返して、ルーマニアのブカレストからソ連のウラジオストックまでを1年9ヶ月をかけて移動しました。1947年日本に帰国すると、外務省からビザ発給の責任を問われ、退職を余儀なくされました。さらには、外務省の同僚から「杉原はユダヤ人に金をもらってやったのだから、金には困らない」という噂もたてられました。多くのユダヤ人を救ったという名誉よりも、「外交官でありながら勝手にビザを発行した」という汚名を着せられ、帰国後十数年間は、進駐軍向けのお店のマネージャー、貿易会社等、職を転々としなければならなかったからです。

帰国後、28年経過した1968年に、杉原さんはビザを発給して救ったユダヤ人と再会します。再会したユダヤ人は杉原さんの手を堅く握り、涙を流しながらお礼を述べました。彼は、杉原さんが発給した、ボロボロにすり切れたビザを今も大切に持ち続けていたのです。杉原さんは自分のとった行動が正しかったことを確信し、その後も、救ったユダヤ人の家族や孫から、深い感謝の言葉が次々に伝えられました。

1985年（昭和60年）1月18日、イスラエル政府から、多くのユダヤ人の命を救出した功績で日本人では初で唯一の「諸国民の中の正義の人」として「ヤド・バシエム賞」を受賞しました。杉原さんの名前が世に知られるようになり、賞賛とともに、政府の訓命に反したことに関して、「国賊だ、許さない」など中傷の手紙も送られるようになったのです。イスラエル政府の表彰を受けても、まだ、「勝手にビザを発行した」ことへの批判は根強かったのです。

日本国政府（外務省）による公式の名誉回復が行われたのは、21世紀も間近の平成12年（2000年）10月10日になってのことです。今では、母校が誇るべき卒業生となっています。

7 実践のまとめと考察

(1) ワークシートへの生徒の記入例（道徳の内容項目と関わりが深い部分に下線を付けた）

生徒A

作業① 杉原千畝と「命のビザ」を読んで、杉原千畝について感じたことを自由に書きましょう。

杉原千畝のたくさんのビザを発給し、日本がその対応に困っていると知っていてもユダヤ人の命を救うために発給し続けた行動にとっても感動した。「命を救いたい」という強い思いがあったのだろうと推測することができた。もちろん、杉原千畝が行ったことは、外交関係的には決していいこととは言えないが、「人」として見ると、とても偉大なことを成しとげた人物であると感じた。

作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについて感じたことを自由に書きましょう。

ビザを勝手に発給し、資格をもたないユダヤ人でさえも日本へ来てしまったことに対する日本での杉原千畝へ非難されてしまったことは、理解できないと言いきれないと思った。しか

し、その行動をせず、ユダヤ人を見離したとしても、全く非難されないかと言われたらそうでもないのではと考えた。私は、不遇な日々を杉原千畝が過ごさなければならなかった事実は、非常に残念だと思った。

作業③ 杉原千畝の生き方から学んだこと考えたことを書きましょう。

私は、今回杉原千畝の話を読み、そしてユダヤ人のことなどを調べて、杉原千畝が行った「ビザの発行」はとてもすばらしい行動だと感じました。もちろん、杉原千畝が行ったビザ発行は、日本にとっても大変な事態を招いたかもしれませんが、でも、人の命を救うことより大切なことは、私はないと考えました。だからこそ、この杉原千畝の行動に感動しました。

ユダヤ人は、ドイツが第一次世界大戦で大敗し、国内が不安に包まれた頃から迫害をされ始めました。ヒトラーは、ドイツ中の不満を、ユダヤ人に向けさせることで国内の団結をしようとし、多くのユダヤ人を殺害しました。何の罪もないユダヤ人を「いやしい人」とし、迫害を正当化していったヒトラーに対して、私は大きな怒りを感じました。しかし、ドイツの危機を救おうとして行ったと思うと、何とも言えないもどかしさも同時に感じました。もっといい方法はなかったのか、そう思いました。

日本は、当時日独伊軍事同盟を結んでいたため、資格をもたないユダヤ人に対するビザの発行は、ドイツを刺激するためしないようにしていました。でも、杉原千畝は発行しました。自分がもしかしたらドイツから非難され、殺害されるかもしれないという状況がありながらもビザを発行し続けた勇気や正義感のあるこの行動は、普通の人ならとてもできなかつただろうと思いました。日本の外交官として、杉原千畝はあまりよい評価を受けないかもしれませんが、人として考えると、日本の中でも最も誇りに思われる人の一人であると私は考えます。

私には、杉原千畝のように人の命を救うことができるか分かりませんが、もし困っている人がいたら、自分のできる最大限の手助けができるような、杉原千畝のように勇気ある行動ができるような人間になりたいです。

生徒B

作業① 杉原千畝と「命のビザ」を読んで、杉原千畝について感じたことを自由に書きましょう。

ユダヤ人の命を救った日本人がいるということは知らなかった。日本人でありながら別の国の人々を助けようと行動できることがすごいと感じた。同じ日本人がこのような偉業を成しとげているのはとても誇らしい。国籍にかかわらず、助け合うことは大切だが、意外と実行にうつすのは難しいと感じる。

作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについて感じたことを自由に書きましょう。

6000人も人の命を救ったにも関わらず、ビザを勝手に発行したという責任を問われるのは理不尽だと感じた。今までの歴史でも、理不尽な評価をされた人が何人もいると思うと、世間の評価は恐ろしいものだと感じた。生きている間に名誉を回復することができてよかったと思う。

作業③ 杉原千畝の生き方から学んだこと考えたことを書きましょう。

この授業を通じて、杉原千畝の行った偉業をはじめて知ることができた。外交官としてリトアニアのカウナスでユダヤ人にビザを発給し、たくさんの命を救った杉原千畝は多くの人々の希望であった。

外交官という職業は、外国に駐在して外務大臣の監督の下に外交事業に従うもので、主な仕

事は条約の締結や外国の情報交換である。杉原氏が在カウナス日本領事館領事代理となる頃には、ユダヤ人に対する迫害が激しくなり、ナチス・ドイツの影響が強い地域から逃れてきたユダヤ人にどのように対処するか、ということが国際問題となっていた。日本では、ユダヤ人に限らず、すべての外国人について避難先の国の入国許可を得ていない者には通過ビザを発給しない、という方針を決めていた。杉原氏に対しても、資格をもたないユダヤ人へのビザ発給の許可を出すことは最後までなかった。そのような状況であっても、自国の考えに背いてまでもビザを発給し、ユダヤ人を救おうとした杉原千畝の勇気と人道性は私たちが尊敬すべきところでもある。

世界大戦が行われているような時代で他国の人を助けるために行動することは簡単にできることではない。この時代よりも平和である現代でさえも国境を越え人のために何かをするのは難しい。

杉原千畝の行動力は現代の私たちにも見習うべきである。世界には今、様々の国際問題がある。多くの人々が、誰かがどうにかしてくれるだろうという他人まかせな考えをもっているから、なかなか解決しないのだろう。例えばアフリカの貧困の問題に関しては、同じ地球で起きているのにも関わらず、軽くとらえてしまっている。そのうち解決するだろうとか自分は無関係だなどと考えているからだ。少なくともすべての人が考えを改め、できることから行動にうつせば、そのような問題も減り、自然と国同士が協力するような国際社会となるだろう。

生徒C

作業① 杉原千畝と「命のビザ」を読んで、杉原千畝について感じたことを自由に書きましょう。

時代は違えども、同じ日本人が他国の人々の救済に大きく貢献していたことには誇りをもてる。日本という国が入国許可を規制する中で一人ユダヤ人のためにビザを発給し続けたという杉原千畝さんの優しさ、人を救おうとする意志の強さは並々ではないと思う。今の日本人もこの人のように周りに流されるのではなくて、人を助ける行為を自分の意志でするのが大切だと感じた。

作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについて感じたことを自由に書きましょう。

ユダヤ人の救済というとても大きな役割を果たしたのにもかかわらず、日本政府には冷たい目で見られ、苦しい生活をしていた杉原さんですが、自分の行動にはきっと後悔はしていないだろうし、何より後に自分が命を救ったユダヤ人に再会し、涙を流して感謝されればそれはどんな賞よりも大切なものだと思う。政府の立場もあると思うが、もう少し同じ日本人として努めてきた人を支えてあげてほしかった。

作業③ 杉原千畝の生き方から学んだこと考えたことを書きましょう。

杉原千畝さんのとった行動に対して日本政府は彼を罰した。前回の授業でそのことを知り、僕は単純に日本政府は冷たいものなんだと残念に思った。しかし、今回の授業で、日本政府が難民受け入れを拒否していた背景がわかった。第一次世界大戦で敗北したドイツは多額の借金を負っていて、その借金の返済のためにユダヤ人の土地を奪い取ろうという政策がヒトラーの下で始まり、ドイツの国民がまとまっていった。そこからユダヤ人の迫害へとつながりユダヤ人は各地へ散らばった。その時日本はドイツと三国同盟を結ぶ間近であったため、ドイツから難民の受け入れを断れという指示に従うしかなかった。この事実を知ると日本政府にとって杉原さんの行動が見過ごすことができないのも少し理解できた。大国ドイツからの圧迫があれば、

ユダヤ人の存在は迷惑だったのかもしれない。しかし、そんな状況にも関わらず、他国との条約・同盟を仕事とする外交官の杉原さんが日本の外交よりも、他民族の人間の命を救ったことには改めて立派だと感じた。杉原さんのとった行動がすべての立場の人が正しいと思うかどうかはわからないが、僕は少なくとも同じ日本人が自分の意志を貫き人の命の救済に貢献したことには変わらないと思うので、結果的に周りから冷たい目で見られることになってはしまったが正しい行動だったと思う。現在日本は様々な国とつながりをもっているし、多くの外交官がいるが、杉原さんのように国の損得だけでなく個人というものにも目を向けられる人が増えてほしいし、自分も全体の利益のために少数部分の人が傷つけられるという悲しいことが少しでも減るような社会作りに貢献したいと思った。そういうことを考える機会を作ってくれたことに対しても杉原さんには感謝をしないといけない。

(2) 考察

杉原千畝の業績については、伝記などを読んでよく知っているという生徒も一部にあったが、多くの生徒は聞いたことがあるという程度であった。そうした状況を踏まえて、今回の取組では杉原千畝がおかれた状況を掘り下げる調べ学習を行い、その上で改めて杉原千畝の行動や生き方から学ぶことを目指した。

時間の制約もあるので、調べは分担して行い、それぞれが調べた成果を持ち寄って全体像を明らかにするという方法をとった。生徒は、それぞれ積極的に調べ、情報共有の場面でも積極的に発言をしていた。生徒が書き残したワークシートなどを見ると、調べやグループワークを行う前の段階では、杉原千畝の業績を客観的に捉えるものが多かったのに対して、杉原千畝がおかれた状況や当時の世界の様子などを調べた後にまとめをさせると、多くの生徒が杉原千畝の生き方を、自分のこれからの生き方に反映させようとする内容を書いていた。他人の業績として客観的に見るだけでなく自分の問題として考えるように変化したものと思われる。

また、1時限目に調べ学習を行う際に、次の時間には今回調べた内容を基に話し合いを行うことを知らせることにより、授業時間内に調べきれなかった内容を自宅で調べた生徒もいた。調べる内容をグループごとに分担したことで、2時限目のグループワークでは、話し合いを円滑に進めるために積極的に参加し、必要な情報を適切に提供する姿勢を見ることもできた。さらに、無作為に選ばれた司会者がグループでの話し合いをうまく進めようと努力する様子を見ることもできた。学習形態を工夫したことで、生徒が責任をもって取り組むことにつながったと考える。

8 成果と課題

(1) 実施の成果

今回は、「総合的な学習の時間」を活用して道徳教育を実施した。実践の目的は、「生命の尊さ」「自主、自律」「真理の探究」といった道徳的価値について、杉原千畝の生き方を通して考えさせ、自らの生き方に反映させることである。しかし、それだけでなく、調べ学習とグループワークを組み合わせることで実施することによって、「自律の精神」「役割と責任の自覚」についても体験的に学ばせることができた。教材と学習形態の双方に道徳教育の視点を採り入れたことは、道徳教育として意義ある実践であったと考える。

また、本教材の内容は地理歴史科や公民科の授業で扱うことも可能であり、道徳の内容項目を採り入れて計画することによって、地理歴史科や公民科の授業内での道徳教育として実施することも可能

である。

(2) 実施の課題

授業の構成の問題もあり、また実施クラスでは世界史Bの授業を担当していることもあり、最後のまとめを行う際に世界史の問題のように考えて、現在とは異なる当時の世界の状況などに注意が集中してしまう生徒もあったことは反省点である。「杉原千畝の生き方に学ぶ」という目的から離れない学習活動となるよう、単元構成や話し合いのテーマ設定に更に工夫をする必要がある。ただ、現代とは全く異なる状況、特に「戦争中」という特別な状況の下にあっても、外交官という立場があっても、「命を救う」というただ一つの目的のためにあえてビザを発給した杉原千畝に対しては多くの生徒が心を動かされていた。

9 おわりに

私たちが行動する際には、自分がおかれた立場や周囲の雰囲気を感じ取るを得ない。時には意に反した行動をせざるを得ないと感じることもある。しかし、中学校学習指導要領にも示されている「自主、自律、自由と責任」「真理の探究、創造」「生命の尊さ」といった道徳的価値は、どのように行動するのかという判断をする際に絶対に忘れてはならないものである。特に、主権者としての権利の行使である「投票」の場面においては、自分の考えに対する自信や、普遍的な価値に照らしての確信がもてなくとも、自らの信念に基づいて投票しなくてはならない。また、その結果についても自ら責任を負わなければならない。「分からないから」と棄権をしたり、誰かに聞いてその通りに投票することは絶対にあってはならない。道徳教育は、しつけとは異なる。単に規範意識を高めるための機会であるだけではなく、もっと幅広く捉えて「よりよい社会を築く」ための主権者となるための機会でもあると考えるべきである。

今回の取組を通して「自主、自律、自由と責任」「真理の探究、創造」「生命の尊さ」といった道徳的価値について考えたことが、生徒たちの道徳的実践力の向上につながり、よりよい社会を築くための動機付けにつながることを期待したい。

参考文献等

- 愛知県教育委員会『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』平成25年3月
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』平成20年9月
- 国立公文書館アジア歴史資料センター『杉原千畝と「命のビザ」』
(「知っていましたか近代日本のこんな歴史」<http://www.jacar.go.jp/modernjapan/index.html>)
- 杉原千畝が発行したビザの画像
(ウィキペディア<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%89%E5%8E%9F%E5%8D%83%E7%95%9D#>)

『明日を拓く』活用事例2

－「赤ちゃんポスト」を活用した「保健」の授業実践－

愛知県立松平高等学校 教諭 松宮 博

1 はじめに

道德教育の充実に向けて、人間としての在り方生き方に関する教育を、学校の教育活動全体を通じて行うことが求められている。また、各学校における道德教育の目標に照らし、学校の特色を生かした道德教育を行うことも重要である。

一方で、小学校・中学校においては道德の時間があり、『明るい人生』『私たちの道德』のような教材も用意されているが、高等学校においては各教科等の時間の中で指導をすることから、必ずしも道德教育を行うという意識が高いとは言えない。

こうした中、平成25年に愛知県教育委員会から『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（以下、『明日を拓く』とする）が発行された。これを活用することにより道德教育への意識の高まりが期待される。今回この中から「赤ちゃんポスト」を教材として活用し、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について考え、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することをねらいとした道德教育の指導を実践した。

2 生徒の実態

本校は豊田市中心部から約5km東部の山間部に位置しており、清流巴川を眼前にし、緑に囲まれ、鶯、ホトトギスなどの声を楽しめる自然豊かな環境にある。昭和24年愛知県立加茂高等学校松平分校として開校し、以来67年がたち、卒業生も1万人を越え地域のさまざまな分野で活躍をしている。各学年普通科4クラス、生活情報科1クラスの計15クラスで、全校生徒数593人の中規模校である。生徒の進路は就職6割、進学4割である。校訓「努力・忍耐・節度」の下、知・徳・体の調和がとれた青年を育成するため、日々の教育活動が行われている。

生徒は素直で落ち着いており、部活動、各種行事、地域貢献の活動等も活発で活力もある。今後は自主性や主体性を育み、さらなる一步を踏み出すことが目標である。

3 実践のねらい

保健の授業では、第2学年で「避妊法と人工妊娠中絶」という単元を扱う。教科書には「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、大きな問題である。しかし、中絶をせずに出産するというのも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味する」という記述があり、この問題について、自分の問題として考えさせたいと思った。人工妊娠中絶の是非を真剣に考える中で、命の尊厳に思い至ることが可能だと考えたからである。

そこで、この問題について深く掘り下げるために、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を教材として活用した。授業の中で、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について考えることを通して、

「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」姿勢を養う道德教育の授業を目指した。

4 実施の方法

(1) 対象と実施時期

2年1組(35名), 平成27年7月

(2) 教育課程上の位置付け

保健体育科, 「保健」(1単位)にて実施

(3) 『明日を拓く』から使用する教材

第3節 社会と関わる 「赤ちゃんポスト」

(4) 展開の工夫

最初に「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書かせ、その後、「赤ちゃんポスト」を教材として、命の尊厳について考えさせた。

まず、赤ちゃんポストとは何かを理解させ、「赤ちゃんポスト」のワークシートを利用して、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方についてグループで話し合いをさせた。話し合いを通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することについて考えさせた。

5 指導の展開

(1) 単元名 避妊法と人工妊娠中絶

(2) 教科書 最新高等保健体育(大修館書店)

(3) 単元の目標

【教科の視点】

- ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。
- ・人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について正しい行動選択を考える。

【道德の視点】

- ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

1 時限	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	参考
導入 (10分)	1 人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担になることを理解する。 2 人工妊娠中絶の是非について考える。	○教科書 P72 の「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、それは本当に大きな問題です。しかし、中絶をせずに出産するということも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味します」という記述を読み、人工妊娠中絶の是非について問いかける。 ○生徒の考えを誘導する発言を避けるように留意する。	

展開 (35分)	1 「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書く。	○自分がもしそのような立場になったらどう考えるのかを想像して書くよう指示する。 ○難しく考えず、今の自分の考えを素直に表現するよう指示する。 ○机間指導を行い、生徒の取組状況を確認する。	
まとめ (5分)	1 レポートを提出する。 2 次時の内容を理解する。	○取組状況を評価する。 ○次時、結果を示し、命の尊厳について考えることを伝える。	

2時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	1 レポート「人工妊娠中絶は是か非か」の結果を知る。 2 「赤ちゃんポスト」とは何かを理解する。	○結果を示すのみで、是非を言及しないよう留意する。 ○教材を用いて分かりやすく説明する。 ○命の尊厳を考えることがテーマであることを理解させる。 ○グループとしての意見を発表することを原則とするが、まとまらない場合は、出た意見を発表するだけでもよいこととする。 ○意見を否定するような話し合いにならないようにさせる。	『明日を拓く』より「赤ちゃんポスト」を、ワークシートも含めて使用する。
展開 (35分)	1 「赤ちゃんポスト」ワークシートに取り組む。 2 6グループに分かれ、意見を出し合う。 3 出てきた意見を1グループ2分ほどで発表する。		
まとめ (5分)	1 さまざまな意見に触れることで、自分の考えを更に深める。	○「赤ちゃんポスト」の是非ではなく、命の尊厳について考えさせることに留意する。	

6 実践のまとめと考察

(1) 人工妊娠中絶の是非に関して

「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートでは、生徒の意見は以下のとおりであった。

【生徒A, 原文のまま】

私は、是だと思う。興味本位や性的欲求を優先させてしまったり、誤った避妊法を信じたりして、妊娠させたのならば、その二人の判断は良くなかったと思う。しかし、その望まない妊娠してしまった時に、そのまま産もうとすると経済面や環境面で、育児を放棄したり、家族や友達に影響すると思う。また、育児のためにお金がなく、育てる場がなかったりし、産まれてくる子に、かなり辛い思いをさせることになると思う。また、強制的に妊娠させられた人は、実際に子どもを必要としない場合や、もしかしたら知らない人との子の場合もあるため、その子どもを産み育てるとなると、精神的、経済的、身体的などに悪影響を及ぼす可能性もあります。

新たな生命の芽を絶つというのはあってはいけないことだが、母体やその家族などの環境面、経済面を考えれば言い方は悪いけど、仕方がないことだと思う。よって、人工妊娠中絶は、是である。

【生徒B，原文のまま】

私は、非です。いくら学生だからとか、経済的にきびしいからといって、せっかくの命を無駄にするのは良くないと思います。

授かりものだし、本当に子どもが欲しいのに出来ない人のことを考えたら、育てられないなら、産んで養子縁組するとか、色々方法はあると思うし、妊娠 22 週未満だからといっても、命に変わりはないと思います。

だから、人工妊娠中絶をすることは、犯罪に等しいと思うし、全て親の責任だから、ちゃんと命として残してあげるべきだと思います。だから私は反対です。

全体では「是」が 18 名、「非」が 17 名でほぼ半々であった。「是」の理由が多かったものは、以下のとおりである。

- ・産んでも幸せになれない、普通の生活は送れないから。
- ・きちんと育てられないから。
- ・DVや育児放棄につながるから。
- ・レイプなどで強制的に妊娠させられた場合には必要だから。

一方、「非」の理由が多かったものは以下のとおりである。

- ・命を奪うことだから。
- ・女性の負担が大きすぎるから。
- ・子どもにも生きる権利があるから。
- ・子どもが欲しくてもできない人のことを考えるとできないから。
- ・養子縁組などの方法もあるから。

このように是非は半々だったが、男女別に見ると、女子は 15 名中 14 名が非であった。子どもを産む性であることは、命の尊厳を考えるときに重要な要素となるのではないかと考えさせられる結果であった。男子生徒に対しては、無責任な行動選択をしないような指導が重要であると感じた。

生徒にこの結果を示し、命の尊厳を考えることの動機付けを高めた。

(2) 赤ちゃんポストの是非に関して

赤ちゃんポストの是非については、「是」が 33 名、「非」が 2 名であった。「是」の理由が多かったものは以下のとおりである。

- ・命をつなぐことができるから。
- ・子どもが欲しくてもできない人に育ててもらえるから。
- ・道端に捨てられるより幸せだから。

「是」とした反面、障害をもっている子を預ける割合が多いことには、疑問を呈する意見が多かった。

一方、「非」の理由は以下のとおりである。

- ・産んだらきちんと育てるべき。
- ・障害のある子を預けるということから反対。

赤ちゃんポストに預けられ育った子に対して、将来出自を伝えるかについては「伝える」が 33 名、「伝えない」が 2 名であった、理由として、子どもにも知る権利がある。命の重みや家族の大切さが分かる。血のつながりより育ててくれたことを感謝すると思うから等、肯定的な意見が多かった。ただし、伝える時期についてはしっかりと理解してもらうためにも高校生以後に伝えるという意見が多かった。

このように、「赤ちゃんポスト」は肯定的な意見が大勢を占めた。

7 成果と課題

上記のとおり、人工妊娠中絶の是非においては半々であったのに対し、赤ちゃんポストの是非についてはほとんどの生徒が「是」との意見であった。また、グループ討議において全てのグループが「是」とした。

無論、「是」と答えた生徒が生命を尊重する姿勢をもち、「非」と答えた生徒がその姿勢に欠けるというわけでは決してない。子どもを産んだら育てるのが当然であるし、親としての責任を放棄することを認めることになるから等、命の尊厳を真剣に考えた上で、「非」という結論にしている。

大切なのは「是」か「非」かではなく、さまざまな考えに触れる中で生命の尊さについて考え、自分なりに理解し、その理解を少しずつ深くしながら、生命の尊さに対する思いを深めていくことであろう。人工妊娠中絶や赤ちゃんポストの存在を考える過程で「かけがえのない自他の生命を尊重する」という道徳的価値に対する理解は、ある程度深まったのではないかと感じた。

しかし、人工妊娠中絶や赤ちゃんポストは高校生にとって現実の問題として捉えにくい。そこで、赤ちゃんポストに関するさまざまな資料を提示したり、今回の取組だけでなく、調べ学習等の手法を用いたりするなど、深く掘り下げて考えることができる授業展開にする必要性を感じた。また、生徒の考えに対し本当にそれでよいのか、別の方法をもっと考えた方がよいのではないかと等、揺さぶりをかける問いを発し、命の尊厳に対する考えを更に深めさせる工夫が必要であると感じた。

参考文献

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年 3 月公示
- 愛知県教育委員会『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて―』平成 25 年 3 月